

中学校

標準学力検査 結果概要 2018

那覇市立教育研究所

●概要

那覇市内の生徒の学習状況について、教研式学力検査CRTの結果をもとに分析診断します。CRTは、基本的に学習指導要録に示された観点別の診断結果をお届けしますが、この資料では、その観点をまとめた「要素」(①知識・理解／技能、②思考・判断・表現)別にグラフを作成してあります。なお、観点と要素との対応は、以下の表のとおりです。

また「小問」ごとに正答率・無答率を分析した一覧表や、それをもとにした学習指導上の留意点等についてコメントしています。(各学年の冒頭では領域別の結果も表示しています。)

観点	国語	②	話す・聞く能力
		③	書く能力
		④	読む能力
		⑤	言語についての知識・理解・技能
	数学	②	数学的な見方や考え方
		③	数学的な技能
		④	数量や図形などについての知識・理解

要素	1	知識・理解、技能といった基礎的な内容 (数学は③・④観点)
	2	思考力・判断力・表現力が問われる活用的な内容 (数学は②観点)

●対象

・市内の公立中学校1年生・2年生の生徒

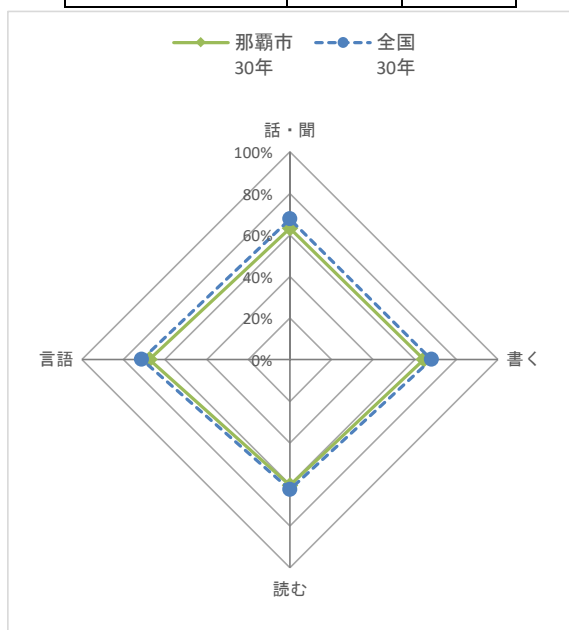
●教科

・国語・数学

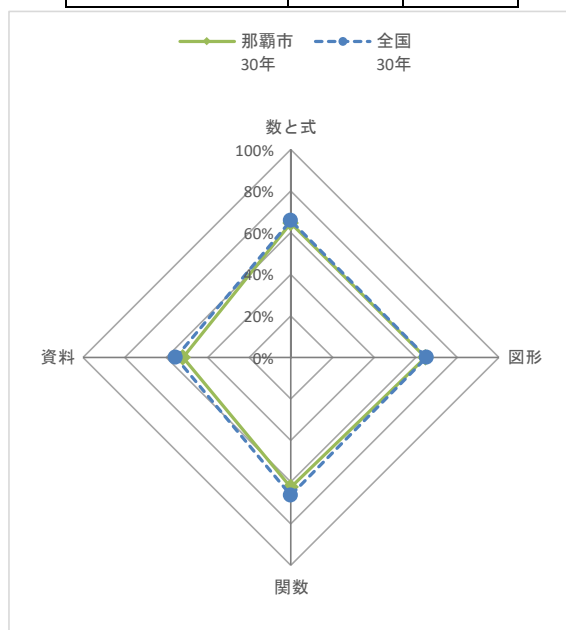
●実施時期

・平成30年5月14日(月)～5月18日(金)

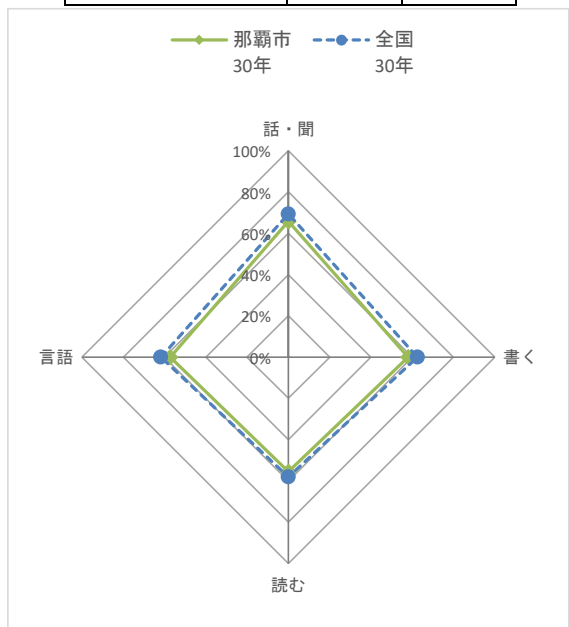
第1学年 国語	那覇市 30年	全国 30年
話すこと・聞くこと	63.2	67.6
書くこと	64.4	68.0
読むこと	60.4	62.4
言語事項	67.6	71.2



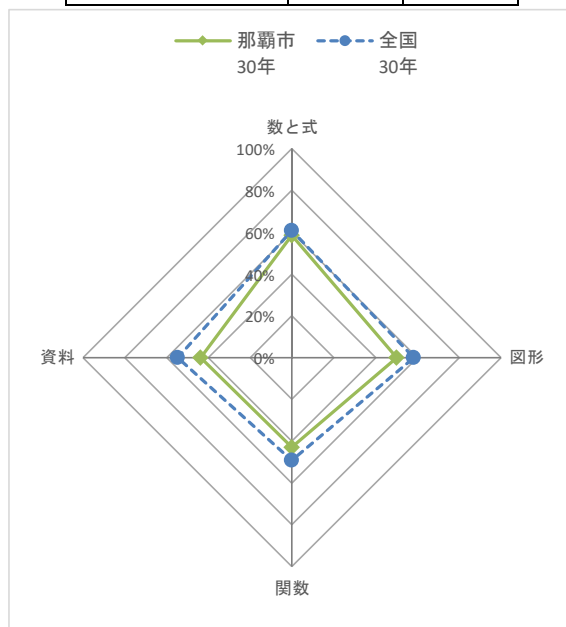
第1学年 数学	那覇市 30年	全国 30年
数と式	64.6	65.8
図形	64.7	65.2
関数	62.5	66.3
資料の活用	51.9	55.4



第2学年 国語	那覇市 30年	全国 30年
話すこと・聞くこと	65.8	69.4
書くこと	58.0	62.5
読むこと	55.5	58.1
言語事項	57.2	61.7



第2学年 数学	那覇市 30年	全国 30年
数と式	58.5	60.8
図形	50.1	58.3
関数	42.9	49.2
資料の活用	43.7	54.7

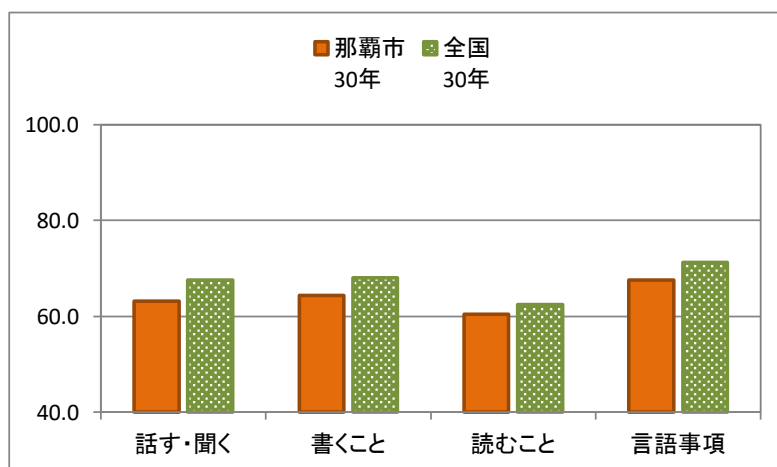
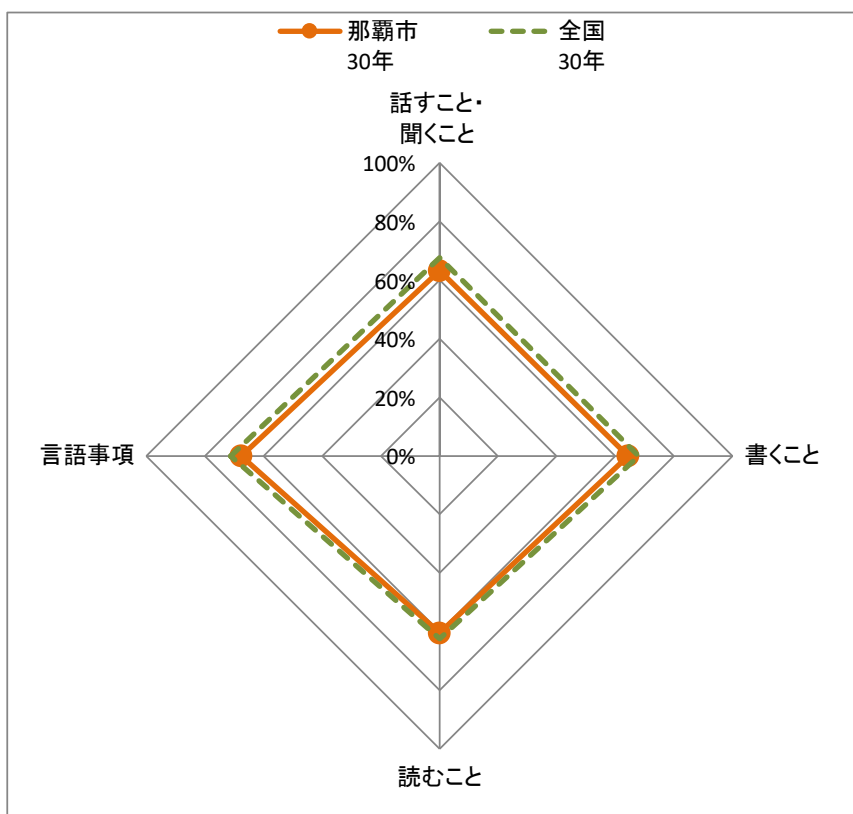


【第1学年 国語】

平成30年度那覇市到達度調査結果

領域別結果（全国との比較）

第2学年 国語	那覇市 30年	全国 30年
話すこと・聞くこと	63.2	67.6
書くこと	64.4	68.0
読むこと	60.4	62.4
言語事項	67.6	71.2



第1学年 国語 要素1

問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素1 知識・理解、技能といった基礎的な内容】

設問番号		出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率		プロフィール
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	那覇市	全国	
1	1	放送・内容の聞き取り	○				○			82%	85%	
1	2	イ 放送・内容の聞き取り	○				○			69%	74%	
1	2	オ 放送・内容の聞き取り	○				○			59%	62%	
1	3	ア 放送・内容の聞き取り	○				○			67%	71%	
1	3	エ 放送・内容の聞き取り	○				○			35%	39%	
2	1	報告文の書き方・目的		○			○			81%	79%	
2	2	報告文の書き方・意見		○			○			51%	54%	
2	3	報告文の書き方・図表		○			○			93%	92%	
2	4	報告文の書き方・引用		○			○			87%	82%	
3	1	漢字の読み・頂				○		○		69%	72%	
3	2	漢字の読み・救済				○		○		52%	64%	
3	3	漢字の読み・操作				○		○		87%	88%	
4	1	文脈に合う語・生物			○			○		41%	40%	
4	2	接続語選択・さらに			○		○			84%	84%	
4	3	ウ 詳細な内容の読み取り			○		○			78%	75%	
4	3	エ 詳細な内容の読み取り			○		○			83%	81%	
5	1	討論会・立場	○				○			81%	71%	
5	2	討論会・考えの理由	○				○			74%	71%	
5	3	討論会・資料	○				○			64%	59%	
5	4	討論会・話し方	○				○			52%	68%	
6	1	複合語・暑苦しい				○		○		81%	82%	
6	2	複合語・立ち上がる				○		○		84%	84%	
7	1	接続語働き・ところが				○	○			84%	85%	
7	2	接続語働き・それとも				○	○			86%	83%	
7	3	接続語働き・では				○	○			71%	72%	
8	1	漢字の書き・強敵				○		○		54%	62%	
8	2	漢字の書き・余る				○		○		64%	64%	
8	3	漢字の書き・招待				○		○		49%	48%	
9	1	文章の書き方		○			○			73%	74%	
9	2	ア 推敲・文の長さ		○			○			57%	58%	
9	2	オ 推敲・文末表現		○			○			53%	53%	
10	2	2 季節の読み取り・春			○		○			60%	67%	
10	2	3 季節の読み取り・秋			○		○			59%	65%	
10	3	文脈に合う語・吹雪			○			○		57%	59%	
10	5	指示語の内容理解			○				○	60%	69%	
11	1	同訓異字・代える				○	○			59%	58%	
11	2	同訓異字・収める				○	○			31%	38%	
11	3	同訓異字・移す				○	○			79%	88%	
12	1	助詞・が				○	○			69%	77%	
12	2	助詞・ばかり				○	○			69%	78%	
14	1	必要なことを書く		○			○			65%	79%	
14	2	小見出しをつける		○			○			48%	61%	
14	3	内容を整理し書く		○			○			57%	68%	
		全 体	9	10	8	16	32	10	1	67%	69%	那覇市 67% 全国 69%

第1学年 国語 要素2

問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素2 思考力・判断力・表現力が問われる活用的な内容】

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域等					問題形式			正答率		プロフィール
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項		選択式	短答式	記述式	那覇市	全国	
4 4	要点の読み取り			○					○	41%	37%	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>全国 那覇市</p> <p>那覇市 58% 全国 63%</p>
4 5 ア	要点の読み取り			○		○				53%	54%	
4 5 ウ	要点の読み取り			○		○				73%	71%	
9 3	資料の提示		○			○				75%	76%	
9 4	主題の理解		○			○				76%	76%	
10 1	心情の読み取り			○		○				76%	80%	
10 4 イ	表現に注意して読む			○		○				39%	41%	
10 4 エ	表現に注意して読む			○		○				67%	74%	
10 6	心情の読み取り			○		○				39%	45%	
13 1	放送原稿・同意語	○				○				62%	70%	
13 2	放送原稿・同意語	○				○				64%	74%	
13 3	放送原稿・同意語	○				○				66%	79%	
13 4	放送原稿・同意語	○				○				53%	63%	
14 4 ウ	書き方の工夫		○			○				39%	46%	
14 4 エ	書き方の工夫		○			○				53%	64%	
	全 体	4	4	7	0	14	0	1		58%	63%	



・・・課題となる問題として、考察コメントがあります。

第1学年 国語 要素1

問題別調査結果 正答率－無答率 【要素1】

設問番号			出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率		プロフィール
				話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	正答率	無答率	
1	1		放送・内容の聞き取り	○				○			82%	0%	
1	2	イ	放送・内容の聞き取り	○				○			69%	3%	
1	2	オ	放送・内容の聞き取り	○				○			59%	8%	
1	3	ア	放送・内容の聞き取り	○				○			67%	2%	
1	3	エ	放送・内容の聞き取り	○				○			35%	5%	
2	1		報告文の書き方・目的		○			○			81%	1%	
2	2		報告文の書き方・意見		○			○			51%	2%	
2	3		報告文の書き方・図表		○			○			93%	0%	
2	4		報告文の書き方・引用		○			○			87%	1%	
3	1		漢字の読み・頂				○		○		69%	3%	
3	2		漢字の読み・救済				○		○		52%	4%	
3	3		漢字の読み・操作				○		○		87%	1%	
4	1		文脈に合う語・生物			○			○		41%	4%	
4	2		接続語選択・さらに			○		○			84%	1%	
4	3	ウ	詳細な内容の読み取り			○		○			78%	5%	
4	3	エ	詳細な内容の読み取り			○		○			83%	8%	
5	1		討論会・立場	○				○			81%	1%	
5	2		討論会・考えの理由	○				○			74%	1%	
5	3		討論会・資料	○				○			64%	2%	
5	4		討論会・話し方	○				○			52%	2%	
6	1		複合語・暑苦しい				○		○		81%	2%	
6	2		複合語・立ち上がる				○		○		84%	2%	
7	1		接続語働き・ところが				○	○			84%	2%	
7	2		接続語働き・それとも				○	○			86%	2%	
7	3		接続語働き・では				○	○			71%	2%	
8	1		漢字の書き・強敵				○		○		54%	8%	
8	2		漢字の書き・余る				○		○		64%	15%	
8	3		漢字の書き・招待				○		○		49%	14%	
9	1		文章の書き方		○			○			73%	5%	
9	2	ア	推敲・文の長さ		○			○			57%	8%	
9	2	オ	推敲・文末表現		○			○			53%	11%	
10	2	2	季節の読み取り・春			○		○			60%	9%	
10	2	3	季節の読み取り・秋			○		○			59%	20%	
10	3		文脈に合う語・吹雪			○			○		57%	22%	
10	5		指示語の内容理解			○				○	60%	27%	
11	1		同訓異字・代える				○	○			59%	16%	
11	2		同訓異字・収める				○	○			31%	16%	
11	3		同訓異字・移す				○	○			79%	16%	
12	1		助詞・が				○	○			69%	19%	
12	2		助詞・ばかり				○	○			69%	20%	
14	1		必要なことを書く		○			○			65%	27%	
14	2		小見出しをつける		○			○			48%	29%	
14	3		内容を整理し書く		○			○			57%	31%	
全 体				9	10	8	16	32	10	1	67%	9%	那覇市平均正答率 67%

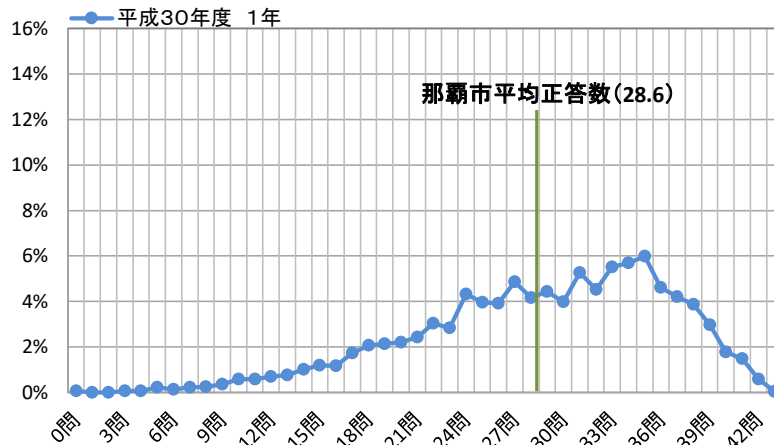
第1学年 国語 要素2

問題別調査結果 正答率-無答率 比較 【要素2】

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率		プロフィール
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	正答率	無答率	
4 4	要点の読み取り			○				○	41%	7%	<p>プロフィール</p> <p>無答率 正答率</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>那覇市平均正答率 58%</p>
4 5 ア	要点の読み取り			○		○			53%	4%	
4 5 ウ	要点の読み取り			○		○			73%	4%	
9 3	資料の提示		○			○			75%	6%	
9 4	主題の理解		○			○			76%	6%	
10 1	心情の読み取り			○		○			76%	8%	
10 4 イ	表現に注意して読む			○		○			39%	26%	
10 4 エ	表現に注意して読む			○		○			67%	25%	
10 6	心情の読み取り			○		○			39%	18%	
13 1	放送原稿・同意語	○				○			62%	22%	
13 2	放送原稿・同意語	○				○			64%	23%	
13 3	放送原稿・同意語	○				○			66%	25%	
13 4	放送原稿・同意語	○				○			53%	25%	
14 4 ウ	書き方の工夫		○			○			39%	35%	
14 4 エ	書き方の工夫		○			○			53%	37%	
	全 体	4	4	7	0	14	0	1	58%	13%	

度数分布【要素1】

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
那覇市	2758	28.6 / 43	67%	30問	7.6

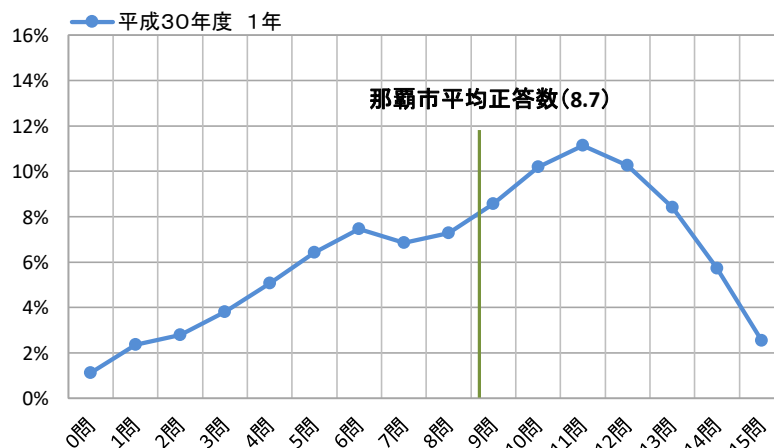


第1学年 国語

正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
正答数	那覇市	
	人数	割合
0問	2	0.1%
1問	0	0.0%
2問	0	0.0%
3問	2	0.1%
4問	2	0.1%
5問	6	0.2%
6問	4	0.1%
7問	6	0.2%
8問	7	0.3%
9問	10	0.4%
10問	16	0.6%
11問	16	0.6%
12問	19	0.7%
13問	21	0.8%
14問	28	1.0%
15問	33	1.2%
16問	32	1.2%
17問	48	1.7%
18問	57	2.1%
19問	59	2.1%
20問	61	2.2%
21問	67	2.4%
22問	84	3.0%
23問	78	2.8%
24問	119	4.3%
25問	109	4.0%
26問	108	3.9%
27問	134	4.9%
28問	115	4.2%
29問	122	4.4%
30問	110	4.0%
31問	145	5.3%
32問	125	4.5%
33問	152	5.5%
34問	157	5.7%
35問	165	6.0%
36問	127	4.6%
37問	116	4.2%
38問	107	3.9%
39問	82	3.0%
40問	49	1.8%
41問	41	1.5%
42問	16	0.6%
43問	1	0.0%

度数分布【要素2】

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
那覇市	2758	8.7 / 15	58%	9問	3.7



正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
正答数	那覇市	
	人数	割合
0問	31	1.1%
1問	65	2.4%
2問	77	2.8%
3問	105	3.8%
4問	140	5.1%
5問	177	6.4%
6問	206	7.5%
7問	189	6.9%
8問	201	7.3%
9問	236	8.6%
10問	281	10.2%
11問	307	11.1%
12問	283	10.3%
13問	232	8.4%
14問	158	5.7%
15問	70	2.5%

中学校1年国語において、要素1(基礎的な内容)で平均正答率が67%、要素2(活用的な内容)で平均正答率が58%であった。要素1では、43問中、中央値が30問であり、6割～8割の正答率の生徒が多い分布となっている。要素2では15問中、中央値は9問であり、基礎的な内容も多いが、3分の1しか正答できない生徒が一定数いる。特に低得点の生徒の課題を把握したい。



傾向の分析と課題となる問題

— 中学 1 年 国語 —

●全体的な傾向●

【要素 1 知識・理解／技能】

成果

- ・ 報告文における基本的な文章の構成要素や必要事項などは、全国的な傾向より通過率が高く、定着しているとみられる。「事実」と「意見」を分けて書くことをさらに理解させたい（大問[2]）。

課題

- ・ 助詞の基本的な使い方について課題がみられる（大問[12]）。
- ・ 考えを明確に表現し、伝わるように文章を書くことに課題がみられる（大問[14]）。

【要素 2 思考・判断・表現】

成果

- ・ 説明文において、文章の構成や話題を理解し、文章の重要な点を的確におさえたりすることについて、全国的傾向より通過率が高い。（大問[4]）

課題

- ・ 物語文において、筆者の表現しようとしている内容を理解したり、主人公の心情を理解したりすることに課題がみられる（大問[10]）。
- ・ 伝えたいことを相手に伝えるために、表現を工夫する点において課題がある（大問[13]）。

【指導にあたって】

- ・ 文章を構成する際には、相手の立場になって、どうすれば伝えたい内容が適切に伝わるかを考える習慣をつけたい。実際の活動の中で、生徒同士でフィードバックし合い、改善していくことが望まれる。

●課題となる問題●

＊ 「知識・理解／技能」・「思考・判断・表現」の要素別に、次ページ以降、分析を掲載しています。表に掲載しているカテゴリーの説明は以下の通りです。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
12	1		助詞・が	69	19	77	選択式

通過率：那覇市生徒の通過率（％）

無答率：那覇市生徒の無解答率（％）

全 国：全国生徒の通過率（％）

形 式：解答形式

中学 1 年（小学校学習内容）国語 【知識・理解／技能】

問題：

- 12 【小学校第 5・6 学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1) イ (キ)】
 14 【小学校第 5・6 学年 書くこと B (1) アイエオ】

問題内容：

- 12 文の構成を理解し、語句の使い方の違いに気づくことができるかどうかをみる。
 14 目的に応じて書く事柄を整理し、工夫して書くことができるかどうかをみる。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
12	1		助詞・が	69	19	77	選択式
	2		助詞・ばかり	69	20	78	選択式
14	1		必要なことを書く	65	27	79	選択式
	2		小見出しをつける	48	29	61	選択式
	3		内容を整理し書く	57	31	68	選択式

誤答分析

- 12-1 の接続助詞「が」が、逆接のつながりであることが理解できていない。また、2 の副助詞「ばかり」が、「すぐ」という意味であることを理解できていない。
- 14 は図書室の利用のすすめを書くという場面で、目的に応じて書く事柄を整理し、工夫して書くことができるかどうかをみる問いであるが、2 では項目にあった見出しを選ぶことができていない。また、「本の紹介をたくさん入れる」という意見は一見良さそうに見えるが、本来伝えたいことの内容が薄れてしまうことが理解できない誤りもみられる。

指導にあたって

- 文の構成を理解し、語句の使い方の違いに気づく力を育てたい。その際、「書くこと」の文章構成などの指導と関連させながら文章構成を意識することは、文章を読んだり書いたりするときに役立つことを実感させる指導をするとよい。基本的な語句については、日常からその意味を辞書などで調べ、確認するように習慣づけるとよい。また別の言葉で置き換えてみたりして、同じ表記の言葉が使われていても、それぞれ文脈によって意味が異なっていることに気づかせたい。
- 案内や報告をする文章では、相手や目的に応じて伝えるべき事柄を簡潔に分かりやすく書くことが大切である。この問題の例であれば、図書室の案内を書くためには、何が書かれている必要があるのかを利用者の立場になって考える必要がある。図書室の利用者にとって大切なことは、利用時間や、本を借りる方法など一見当たり前のように感じることであっても、利用者はそれらのことを知らない場合があるという発想の転換をさせる必要がある。伝える相手によっては伝えなくてもよい情報もある、それは何か、といった情報の取捨選択する視点も必要であることを考えさせたい。

指導例

- ・ 助詞については、例えば、A「友だちが、外にいる」という文と、B「外で遊びたいが、勉強しよう」という文について、Bの文の「が」は、「けれど」や「しかし」などの言葉に置き換えられることを示し、逆接的な意味を持つ「が」であることを学ばせるとよい。表面的な文の理解ではなくて、何を意味している文なのかを比較させるとよい。
- ・ よりよい案内や報告する文章を書くために、例えば近所の公民館や図書館などの利用案内や市の広報誌などを見て、施設に来てもらうためにどのような情報が書かれているのか、どのように表されているのかなどを話し合い、気づかせるとよい。加えて、自分だったらどう書くか、どのような情報があれば行ってみたいと思うかなどを考えさせるとよい。

問題14の指導例 目的に応じて書く事柄を整理し、工夫して書くことができるかどうかをみる。

『平成21年度 授業アイディア例（中学国語）』

授業アイディア例

教材例 ■ 「子ども図書館案内図」(平成21年度全国学力・学習状況調査問題から) ■ 「博物館のパンフレット」(例)

「博物館のパンフレット」(例)

INFORMATION どのような情報をお知りになりたいですか？

博物館が開くのは何時ですか？	展示エリア 資料室 特別展示エリア	年中無休 9:00～17:00 月曜～金曜 9:00～17:00 見学には事前申し込みが必要です。当館ホームページでお申し込みください。
入館料はいくらですか？	展示エリア (資料室含む)	一般350円(10人以上の団体320円) 学生160円 (就学前のお子様、65歳以上の方は無料)
音声ガイドを聞くことができますか？	1階受付横の「音声ガイドカウンター」で、レンタルしています。 音声は、日本語・英語・中国語・韓国語からお選びいただけます。 料金:1日200円	
学校団体の見学サービスはありますか？	10人以上の学生団体には、ガイドがついて館内を案内します。所要時間は約1時間です。 1階受付でお申し込みください。	

学習の流れ

1 「子ども図書館案内図」と「博物館のパンフレット」から、表現の工夫をしているところを探す。

- (質問) どのような工夫をしていますか。
(工夫例) ・ 案内図の中に、説明を短い文章で書いている。
・ 図やシンボルマークを使っている。
・ Q&Aの形式で、説明をしている。 など

2 特に読み手を意識して工夫しているところを探す。

「子ども図書館案内図」

- ・ 館内について知りたいとき
- ・ 映像を楽しみたいとき

「とき」で終わっている。

「博物館のパンフレット」

- ・ 博物館が開くのは何時ですか？
- ・ 入館料はいくらですか？

「か？」で終わっている。

3 2で確認した表現の工夫を取り入れて、「校舎案内図」や「学校図書館案内図」などを作成する。

留意点

- ・ 相手や目的に応じて表現の仕方を工夫することを、各教科等における学習の中で生かしていくよう指導する。

問題14の指導例

目的に応じて書く事柄を整理し、工夫して書くことができるかどうかをみる。

授業アイデア例

『平成24年度 授業アイデア例（中学国語）』

教材例 ● 美術館の注意書き（文章だけのもの、文章とマークで示したもの）

学習の流れ

1 美術館の注意書きについて，〔資料1〕と〔資料2〕とを比較する。



〔資料1〕は文字だけで説明しているけれど，〔資料2〕はマークと文字で説明しているね。

〔資料2〕は，マークだけだと伝わらない情報が補足されていることが分かります。



〔資料2〕のAのマークは，「カメラでの撮影は禁止」ということしか分からないね。だから，その横に情報を補足しているんだね。



2 〔資料2〕のBのマークに補足する説明を考える。



教師

〔資料2〕のBのマークにどのような説明を補足したらよいですか。〔資料1〕の説明を参考に考えてみましょう。

〔資料1〕美術館の注意書きの一部

作品を鑑賞する際には，次のようなことに注意してください。
著作権法上，作品の写真撮影は禁止です。また，フラッシュの使用は作品に悪い影響を与えます。携帯電話での撮影もご遠慮ください。

食べ物や飲み物が作品に付着するのを防ぐため，飲食は禁止です。ガムや飴を口に含んでの鑑賞もお控えください。変色やカビの原因となります。花束などの植物の持ち込みもご遠慮ください。

〔資料2〕のBのマークは，「飲食は禁止」ということは分かるけれど，〔資料1〕を読むと，それに関連してもう少し他の注意が書いてあるな。



〔資料2〕マークを使った注意書きの一部

A 撮影禁止のピクトグラム

携帯電話での撮影もご遠慮ください。作品には著作権があります。

B 飲食禁止のピクトグラム

それぞれから分かる情報を比較して整理することが大切です。では，〔資料2〕のBのマークに補足する説明を書いてみましょう。



留意点

- 「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～【中学校版】」の事例4なども参考になる。

問題 14 の指導例

目的に応じて書く事柄を整理し、工夫して書くことができるかどうかをみる。

授業アイデア例

『平成 28 年度 授業アイデア例（中学国語）』

学習の流れ

「係の活動への協力を呼びかけるちらしを作る」ための学習の見通しをもつ。
収集したちらしの表現の工夫とその効果について考える。（第 1 時）

係の活動への協力を呼びかけるちらしの下書きを作成する。
互いのちらしの表現の工夫とその効果についてグループで交流する。（第 2 時）

表現の工夫とその効果について、前時までに学習したことを踏まえて、各自でちらしを完成させる。（第 3 時）

（言語活動） 係の活動への協力を呼びかけるちらしを作る。

授業前の教師の準備

B 1 三についての生徒の解答の状況を「解答類型」（平成 28 年度 報告書 中学校 国語）に照らして把握する。特に、以下の「解答類型」の生徒の解答の状況に着目する。

● 「解答類型 3」の生徒

ちらしの表現の工夫を捉えているが、その効果について具体的に書くことができていない。

教材例

- 情報を読む（漆）（平成 28 年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語 B 1）
- 身の回りにあるちらし、ポスター、パンフレットなど

第 1 時

- 1 学習の見通しをもつ。
- 2 集めてきた複数のちらしを読み、表現の工夫とその効果を各自でノートにまとめる。
- 3 ノートにまとめた表現の工夫とその効果についてグループで交流する。



教師

「工夫」や「効果」という言葉を用いながら交流しましょう。提示された表現の工夫について、別の効果が考えられないかについても意見を述べ合いましょう。

スーパーのちらしには、実際の商品の写真を用いているという工夫があったよ。これは、どのような商品なのかが一目で分かるという効果があるね。



観光案内のちらしにも現地の写真が用いられているけれど、これには文章だけでは分かりにくい内容が理解しやすくなるという効果があると思うな。

写真を用いると、多くの人の興味を引く効果があるね。

- 4 交流した内容を踏まえ、各自のノートを見直す。

〔ノートの例〕

表現の工夫	この表現の工夫によって	効果
<ul style="list-style-type: none"> 写真や絵などを入れる 		<ul style="list-style-type: none"> 一目で分かる 文章だけでは分かりにくい内容が理解しやすくなる 多くの人の興味を引く
<ul style="list-style-type: none"> 伝えたいことを始めに書く 		<ul style="list-style-type: none"> 目立つ 多くの人の興味を引く

次ページに続く…

第2時

- ⑤ 各自でどのようなちらしを作るのかを決める。
- ⑥ 前時のノートを参考にしながら、ちらしの下書きを作成する。
※ 用紙の大きさは、A5程度。時間内に完成するように配慮する。
- ⑦ それぞれのちらしの表現の工夫とその効果についてグループで交流する。

「工夫」や「効果」という言葉を用いながら交流しましょう。期待する効果を生むために、別の工夫が考えられないかについても意見を述べ合いましょう。



私が作ったちらしの工夫は、「花壇に花を植えます」という説明を始めに書いたことです。こうすることで、目立つという効果や多くの人の興味を引くという効果があると思います。



多くの人の興味を引くためには、「花壇に花を植えます」のところに、「植えてみませんか」などの呼びかける表現を用いるという工夫をしてみてもいいかな。その方が、協力を呼びかけていることが分かりやすくなると思うな。



- ⑧ 交流した内容を踏まえ、各自のノートを見直す。

〔ノートの例〕

表現の工夫	この効果を生むために	効果
<ul style="list-style-type: none"> 写真や絵などを入れる <p>交流を通して新たに気付いたことを書き加えましょう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 一目で分かる 文章だけでは分かりにくい内容が理解しやすくなる 多くの人の興味を引く
<ul style="list-style-type: none"> 伝えたいことを始めに書く 呼びかける表現を用いる 		<ul style="list-style-type: none"> 目立つ 多くの人の興味を引く

第1時及び第2時終了後の教師の分析

- 第1時及び第2時終了後に、ノートの記述内容を分析する。
- 授業前に把握した「解答類型3」に該当する生徒が、次のような内容を記述することができているかどうかを見る。
- ちらしの表現の工夫を取り上げ、その効果を具体的に書いている。
 - ちらしの表現の工夫とその効果について気付いたことを書き加えている。
- 第1時終了後に不十分だった生徒については、第2時のちらしを作成する様子を観察し、必要に応じて支援する。

第3時

- ⑨ 前時のノートを参考にして、ちらしを完成させる。

本授業アイデア例

活用のポイント!

- 学校生活の中で生徒が既に作っているちらしやパンフレットなどを用いて学習することも考えられる。
- 国語科で学習したことを活用しながら、特別活動や総合的な学習の時間などで、ちらしやパンフレットを作成することも効果的である。

参照▶「平成28年度 報告書 中学校 国語」P.64～P.68,「平成28年度 解説資料 中学校 国語」P.54～P.59

中学 1 年（小学校学習内容）国語 【思考・判断・表現】

問題：

- 10 【 小学校第 5・6 学年 読むこと C（1）エ 】
 13 【 小学校第 5・6 学年 話すこと・聞くこと A（1）イ 】

問題内容：

- 10 文学的な文章について，登場人物の相互関係や心情，場面の描写を捉えて読むことができるかをみる。
 13 場に応じた適切な言葉遣いで話すことができるかどうかをみる。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
10	1		心情の読み取り	76	8	80	選択式
	4	イ	表現に注意して読む	39	26	41	選択式
	4	エ	表現に注意して読む	67	25	74	選択式
	6		心情の読み取り	39	18	45	選択式
13	1		放送原稿・同意語	62	22	70	選択式
	2		放送原稿・同意語	64	23	74	選択式
	3		放送原稿・同意語	66	25	79	選択式
	4		放送原稿・同意語	53	25	63	選択式

誤答分析

- 文学的文章で，表現の細部を読み取れていないために，登場人物の心情や場面の様子を想像できないための誤りがみられる。
- 学校放送など不特定多数の人に呼び掛ける際，適切な言葉遣いについての理解を問う場面で，漢字を含む熟語を平易な言い方に変えるという問いで，4 の「異議はありませんでした」を言い換える際に，「異論はありませんでした」を選ぶ誤りがみられる。

指導にあたって

- 文章の組み立てや作品の場面を静的に捉えてその構成を理解するだけでなく，時間的な流れや状況の理解をする必要がある。この問いの場合，母熊が生まれた子熊の姿を見たことがないことの理由を読み取る必要がある。まず，子熊の姿を見たことがないということは，母熊自身による要因（目が見えていない，身体が動かせないなど）や，周囲の状況による要因（暗闇であるなど）がある。直接的に書かれていなくても，子熊の姿を見たことがないとはどういうことなのかを想像を働かせて読む必要がある。
- 放送などは相手の反応を確かめながら話したり，相手に伝わっているのか様子をみたりしながら話すことができないので，正確に自分の言いたいことを伝えるためには，より丁寧に語句の選択をする必要がある。熟語は，目で漢字を読むことで意味が伝わりやすい利点がある一方で，話し言葉としては適切でない場合もある。不特定多数に通じる必要のある言葉は平易な言い方にすることが適切である。

指導例

- ・ 大勢に向けて話す力を伸ばすためには、話している自分とそれを聞いている相手との相互関係の中で学ぶ必要がある。放送原稿を書いたら、実際に口に出してみると自分でよくわからない言葉遣いだったり、聞き手にとって理解しづらい言葉があったりといったことに気づくことができる。
- ・ デパートなどの商業施設や電車内の放送などを聞いたときに、自分がわかったこと、わからなかったこと、工夫されていると感じたところなどを話し合わせるのもよい。

問題13の指導例

場に応じた適切な言葉遣いで話すことができるかどうかをみる。

指導の狙い

話し言葉と書き言葉との違いを理解し、実際に話す場面にふさわしい適切な表現を使うことができるようにする。

課題の見られた問題の概要と結果

A[4]二 「生徒会活動（小学校……児童会活動）」を場に応じた話し言葉にする。

正答率 48.6%

（※本バリエーションにおける正答率は、抽出調査のため推計値であり、誤差±0.2%程度の精度となっています。）

学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ

(7) 話し言葉と書き言葉との違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること。

授業アイデア例

『平成24年度 授業アイデア例（中学国語）』

教材例 ● 説明メモ

学習の流れ

- 1 応援合戦の〔説明メモ〕を使って、実際に声に出して説明する。

〔説明メモ〕を基に、実際に話してみましょう。



教師

〔説明メモ〕

◎ 応援合戦の道具

- ・ ベットボトル（500mL、一人2本まで）○
- ・ うちわ ○
- ・ 軍手 ○ } 色付け可。
- ・ 音楽 ×
- ・ クラッカー ×

◎ 練習について

- ・ 練習場所……体育委員が指示
- ・ 練習時間……16:30まで（片付け含む）
→応援団長は担任に報告

- 2 小グループ内で順番に説明し合う（録音する）。

〔実際の説明の例〕

応援合戦についての連絡をします。

まず、使用する道具のことです。応援合戦に使える道具は、ベットボトル、うちわ、軍手の三つです。ベットボトルは500mLの大きさで、一人2本までとします。うちわと軍手は、色を付けても構いません。なお、音楽を流したりクラッカーを使ったりすることはできないので注意してください。

次に、練習についてです。応援合戦の練習場所は、体育委員が指示します。指示に従ってください。練習の終了時間は、16時30分です。それまでに片付けを終え、応援団長は終了したことを担任の先生に報告してください。

以上です。全員で協力して、盛り上げましょう。



- 3 録音したものを聞きながら、次の観点で相互評価する。

ア 聞いて分かりやすい表現になっているか。

イ 「（ ）」、「……」、「→」などの記号を、的確な話し言葉に変えているか。

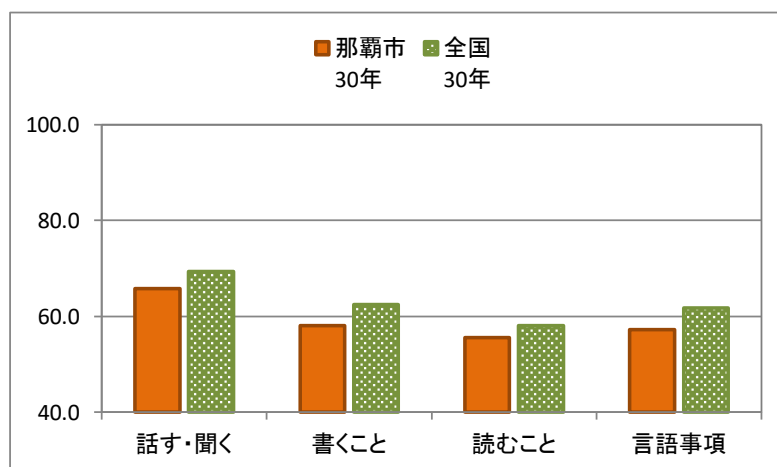
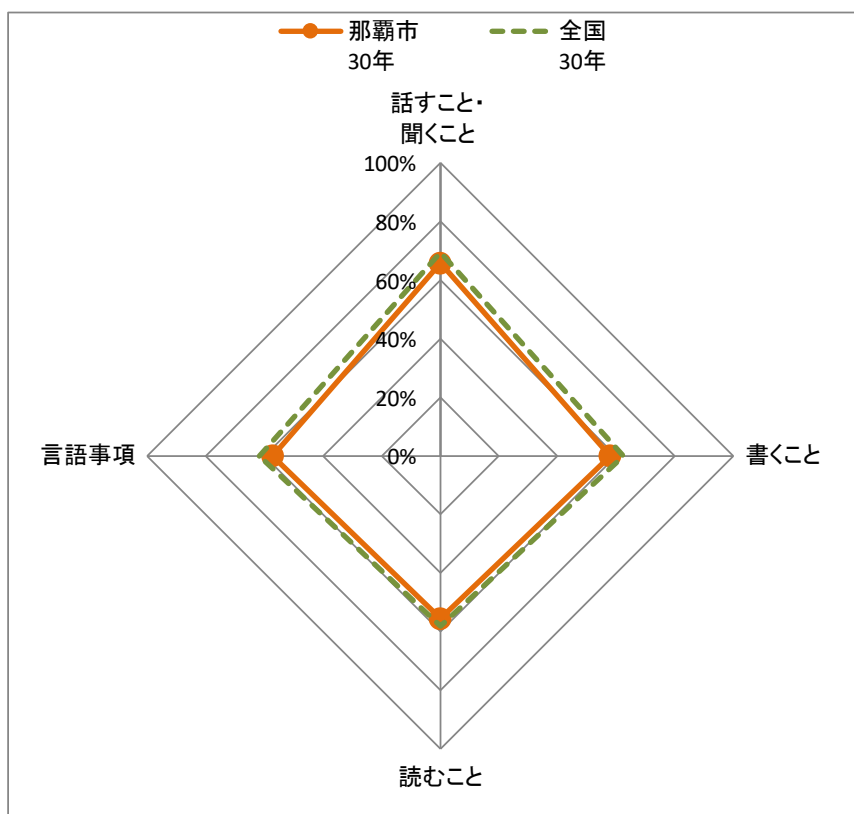
- 4 各グループの代表者の説明を学級に紹介し、よい点や改善点を確認する。

【第2学年 国語】

平成30年度那覇市到達度調査結果

領域別結果（全国との比較）

第2学年 国語	那覇市 30年	全国 30年
話すこと・聞くこと	65.8	69.4
書くこと	58.0	62.5
読むこと	55.5	58.1
言語事項	57.2	61.7



第2学年 国語 要素1

問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素1 知識・理解、技能といった基礎的な内容】

設問番号		出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率		プロフィール
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	那覇市	全国	
1	1	放送・主題の聞き取り	○				○			66%	67%	
1	2	放送・内容の聞き取り	○				○			37%	41%	
1	3	ア 放送・スピーチの批評	○				○			76%	79%	
1	3	ウ 放送・スピーチの批評	○				○			68%	71%	
2	2	イ 文章を評価・批評する		○			○			77%	79%	
2	2	オ 文章を評価・批評する		○			○			63%	67%	
2	3	エ 構成等を工夫して書く		○			○			72%	71%	
2	3	オ 構成等を工夫して書く		○			○			63%	62%	
3	1	語の意味・やりこめる			○		○			57%	56%	
3	2	文章の内容理解			○		○			71%	73%	
3	3	主述の関係の理解				○	○			29%	33%	
3	5	適語補充・じつは			○		○			64%	63%	
3	9	B 単語の類別・形容詞				○	○			48%	46%	
3	9	C 単語の類別・名詞				○	○			81%	73%	
3	9	D 単語の類別・助詞				○	○			58%	57%	
4	ア	話すときの注意点	○				○			88%	90%	
4	イ	聞くときの注意点	○				○			84%	82%	
4	オ	話すときの注意点	○				○			77%	80%	
5	1	推敲・漢字の誤り		○				○		55%	65%	
5	2	推敲・仮名遣い		○				○		56%	60%	
5	3	推敲・送り仮名		○				○		65%	70%	
6	1	古文・音読の理解				○	○			41%	44%	
6	2	古文の意味・心得たり				○	○			54%	57%	
6	3	古文・主語の読み取り				○	○			55%	58%	
6	4	古文・内容理解				○	○			36%	41%	
7	1	叙述に即した読み取り			○		○			61%	62%	
7	4	適語補充・そっけなく			○		○			61%	68%	
8	1	1 話し合い・司会者	○				○			70%	80%	
8	1	2 話し合い・展開の理解	○				○			49%	59%	
8	1	3 話し合い・言葉遣い	○				○			66%	76%	
9	1	漢字の読み・普段				○		○		87%	94%	
9	2	漢字の読み・鋭い				○		○		81%	89%	
9	3	漢字の読み・隠れた				○		○		84%	90%	
9	4	漢字の読み・恐れる				○		○		86%	93%	
10	1	文節の理解				○	○			38%	42%	
10	2	文節の理解				○	○			57%	69%	
12	1	漢字の書き・限界				○		○		44%	48%	
12	2	漢字の書き・模型				○		○		47%	47%	
12	3	漢字の書き・認める				○		○		62%	75%	
12	4	漢字の書き・破れた				○		○		52%	63%	
		全 体	10	7	5	18	29	11	0	62%	66%	

第2学年 国語 要素2

問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素2 思考力・判断力・表現力が問われる活用的な内容】

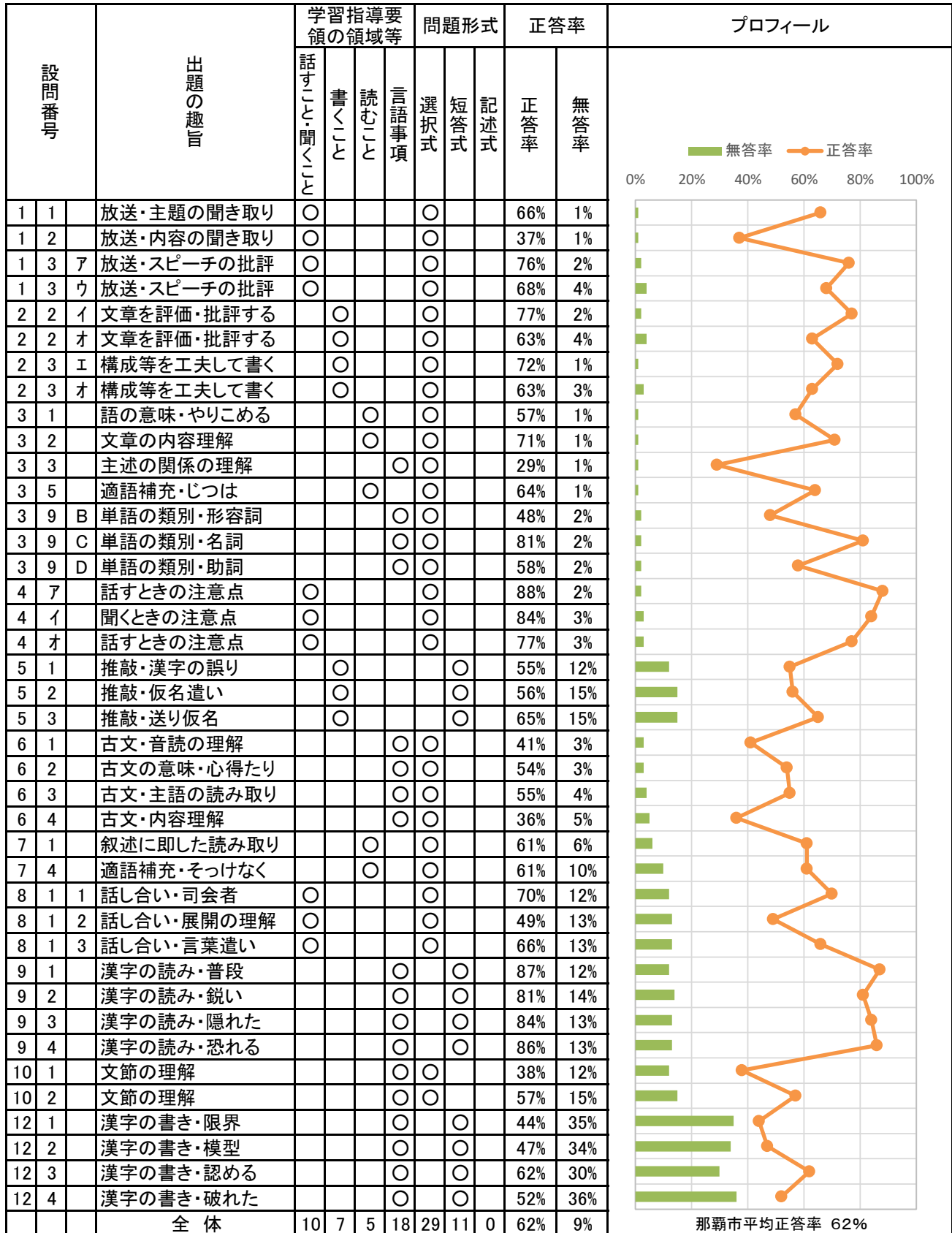
設問番号			出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率		プロフィール
				話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	那覇市	全国	
1	4	イ	放送・適切な質問意見	○				○			69%	66%	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>全国 ○ 那覇市</p> <p>那覇市 54% 全国 58%</p>
1	4	オ	放送・適切な質問意見	○				○			67%	64%	
2	1		文脈に合う語句		○				○		71%	71%	
3	4		叙述に即した読み取り			○		○			68%	65%	
3	6		叙述に即した読み取り			○		○			46%	45%	
3	7		要点をまとめる			○				○	56%	59%	
3	8		文章の展開の読み取り			○		○			49%	52%	
7	2		表現の読み取り			○			○		36%	41%	
7	3		心情の読み取り			○		○			62%	70%	
7	5		適語補充・チョコ			○			○		56%	65%	
7	6		表現の特徴の読み取り			○		○			41%	44%	
8	2	イ	話し合いの注意点	○				○			53%	56%	
8	2	オ	話し合いの注意点	○				○			59%	67%	
11	1	ア	資料を読み取り書く		○			○			33%	32%	
11	1	エ	資料を読み取り書く		○			○			56%	61%	
11	2	イ	材料を吟味して書く		○			○			54%	61%	
11	2	オ	材料を吟味して書く		○			○			57%	69%	
11	3	1	資料の収集・選択		○			○			49%	60%	
11	3	2	資料の収集・選択		○			○			47%	55%	
			全 体	4	7	8	0	15	3	1	54%	58%	



・・・課題となる問題として、考察コメントがあります。

第2学年 国語 要素1

問題別調査結果 正答率－無答率 【要素1】



第2学年 国語 要素2

問題別調査結果 正答率-無答率 比較 【要素2】

設問番号				出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率		プロフィール
					話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	正答率	無答率	
1	4	イ		放送・適切な質問意見	○				○			69%	1%	<p>プロフィール</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■ 無答率 ● 正答率</p> <p>那覇市平均正答率 54%</p>
1	4	オ		放送・適切な質問意見	○				○			67%	3%	
2	1			文脈に合う語句		○				○		71%	7%	
3	4			叙述に即した読み取り			○		○			68%	1%	
3	6			叙述に即した読み取り			○		○			46%	3%	
3	7			要点をまとめる			○				○	56%	9%	
3	8			文章の展開の読み取り			○		○			49%	2%	
7	2			表現の読み取り			○			○		36%	22%	
7	3			心情の読み取り			○		○			62%	9%	
7	5			適語補充・チョコ			○			○		56%	26%	
7	6			表現の特徴の読み取り			○		○			41%	13%	
8	2	イ		話し合いの注意点	○				○			53%	18%	
8	2	オ		話し合いの注意点	○				○			59%	21%	
11	1	ア		資料を読み取り書く		○			○			33%	19%	
11	1	エ		資料を読み取り書く		○			○			56%	22%	
11	2	イ		材料を吟味して書く		○			○			54%	23%	
11	2	オ		材料を吟味して書く		○			○			57%	25%	
11	3	1		資料の収集・選択		○			○			49%	25%	
11	3	2		資料の収集・選択		○			○			47%	25%	
				全 体	4	7	8	0	15	3	1	54%	14%	

度数分布【要素1】

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
那覇市	2824	24.8 / 40	62%	25問	7.1

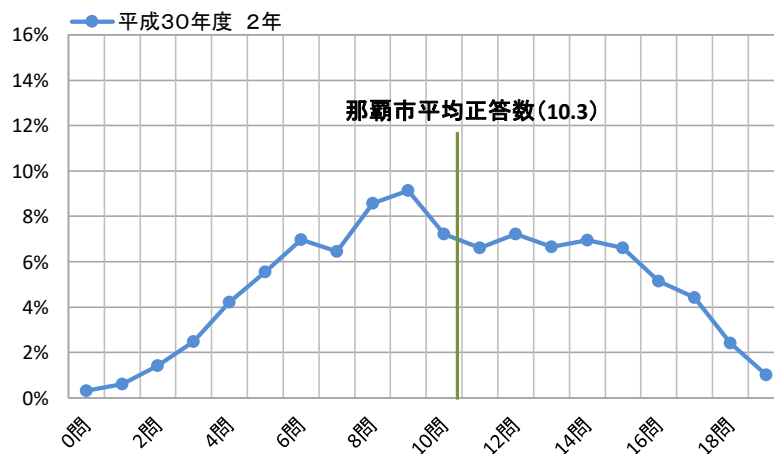


第2学年 国語

正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
正答数	那覇市	
	人数	割合
0問	2	0.1%
1問	0	0.0%
2問	0	0.0%
3問	1	0.0%
4問	3	0.1%
5問	3	0.1%
6問	10	0.4%
7問	6	0.2%
8問	18	0.6%
9問	24	0.8%
10問	21	0.7%
11問	28	1.0%
12問	38	1.3%
13問	37	1.3%
14問	55	1.9%
15問	53	1.9%
16問	80	2.8%
17問	92	3.3%
18問	77	2.7%
19問	108	3.8%
20問	105	3.7%
21問	121	4.3%
22問	132	4.7%
23問	108	3.8%
24問	157	5.6%
25問	147	5.2%
26問	176	6.2%
27問	124	4.4%
28問	141	5.0%
29問	154	5.5%
30問	135	4.8%
31問	135	4.8%
32問	118	4.2%
33問	97	3.4%
34問	94	3.3%
35問	88	3.1%
36問	49	1.7%
37問	43	1.5%
38問	31	1.1%
39問	12	0.4%
40問	1	0.0%

度数分布【要素2】

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
那覇市	2824	10.3 / 19	54%	10問	4.2



正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
正答数	那覇市	
	人数	割合
0問	9	0.3%
1問	17	0.6%
2問	40	1.4%
3問	70	2.5%
4問	119	4.2%
5問	157	5.6%
6問	197	7.0%
7問	182	6.4%
8問	242	8.6%
9問	258	9.1%
10問	204	7.2%
11問	187	6.6%
12問	204	7.2%
13問	188	6.7%
14問	196	6.9%
15問	187	6.6%
16問	145	5.1%
17問	125	4.4%
18問	68	2.4%
19問	29	1.0%

中学校2年国語において、要素1(基礎的な内容)で平均正答率が62%、要素2(活用的な内容)で平均正答率が54%であった。要素1では、40問中の中央値が25問、要素2では、19問中の中央値は10問であった。要素1の標準偏差が7.1、要素2の標準偏差が4.2といずれも得点の散らばりが大きい分布となっており、習得の程度に差がある傾向がみられる。それぞれの生徒の課題を発見し、特に低得点の生徒には基礎的な内容を確実に習得させたい。



傾向の分析と課題となる問題

— 中学 2 年 国語 —

●全体的な傾向●

『平成 24 年度 授業アイデア例（中学国語）』

【要素 1 知識・理解／技能】

成果

- ・ 単語の類別に関する事項について、全国より通過率が高く、望ましい状態にあると考えられる。（大問 3—9）

課題

- ・ 文章の推敲（大問 5），話し合いにおける発言の果たす役割の理解（大問 8）について課題がみられる。

【要素 2 思考・判断・表現】

成果

- ・ スピーチを聞いて、適切な質問をすることについて、全国より通過率が高く、のぞましい状態にあると考えられる（大問 1—4）。

課題

- ・ 文学的な文章の構成や表現の特徴を捉え、要点をまとめたり、登場人物の心情を把握したりすることに課題があるとみられる（大問 7）。
- ・ 報告文を書くにあたり、基になる資料を適切に読み取ることに課題がみられる（大問 11）。

【指導にあたって】

- ・ ある程度の量の文章を読み解き、内容を理解するには、説明文、文学作品どちらにおいても、**文章構成を把握したり、表現の特徴を理解したり**する必要がある。説明文においては、筆者の意見なのか、一般的事実なのかを区別すること、文学作品では、登場人物それぞれの性格や行動・発言をきちんと区別して、それぞれが置かれている状況や心情を把握することなどに注目させて指導したい。
- ・ 報告書など、資料を基にして文章を書く際には、その資料を適切に読み解くことが要となるので、**自分の知りたい情報、伝えたい内容に必要な資料かどうかの検討も含めて、丁寧に資料を分析すること**を心掛けさせたい。

●課題となる問題●

* 「知識・理解／技能」「思考・判断・表現」の要素別に、次ページ以降、分析を掲載しています。表に掲載しているカテゴリーの説明は以下の通りです。

問題番号		問題内容	通過率	無答率	全国	形式
5	1	推敲・漢字の誤り	55	12	65	短答式

通過率：那覇市生徒の通過率（％）

無答率：那覇市生徒の無解答率（％）

全 国：全国生徒の通過率（％）

形 式：解答形式

中学2年（中学1年学習内容）国語【知識・理解／技能】

問題：

- ⑤ 【第1学年 書くこと B（1）エ】
⑧ 【第1学年 話すこと・聞くこと A（1）ウエオ（2）イ】

問題内容：

- ⑤ 書いた文章を読み返し、適切な表現に書き直すことができるかどうかをみる。
⑧ 話し合いの話題や方向性を捉えて、相手や場に応じた言葉遣いに注意して、的確に話すことができるかどうかをみる。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
5	1		推敲・漢字の誤り	55	12	65	短答式
	2		推敲・仮名遣い	56	15	60	短答式
	3		推敲・送り仮名	65	15	70	短答式
8	1	1	話し合い・司会者	70	12	80	選択式
		2	話し合い・展開の理解	49	13	59	選択式
		3	話し合い・言葉遣い	66	13	76	選択式

誤答分析

- 推敲の場面で「仮名遣い」「送り仮名」といった表記上の誤りを正しく修正できていない。「仮名遣い」を修正する問いで、正しい漢字である「雰囲気」を「ふんいき」と修正するなど、「仮名遣い」の意味がわかっていないと考えられる誤りもみられる。
- 話し合いにおける発言が、それぞれどのような役割を担っているのか、話し合いにおいて、何のために、何について話し合っているのかを意識できていないための誤りがみられる。

指導にあたって

- 国語の授業で感想文や作文などの長い文章を書かせるときには、きちんと見直すという習慣をつける必要がある。このとき、同音異義語や同訓異義語など、同じ音をもつものの語句の扱い方や、小学校の学習範囲の漢字についても、勘違いして覚えていて間違いと気づかない場合などもあるので注意が必要である。
- 話し合いにおいては、「互いの立場や意図をはっきりさせて建設的に話し合うこと」や、「だれと何について話し合い、何のために、何について話しているのか」を捉えて話すことが大切である。それぞれが思いついたままに話して、話し合っている目的を見失わないようにする役目として、司会（意見を整理して進める人）がいて、出た意見をまとめることで、新たな問題点や提案をする人がいることで、話し合っている意味（一人で考えるのではなくて、自分以外の人と話して考えることの利点）がもたらされる点などを認識させたい。

指導例

- 生徒同士で読み合い、感想を言い合ったり改善点を話し合ったりすることは、伝わらなかったことや気づいた点をきちんと相手に伝えられるようになることにもつながり、伝え方の練習をするという意味でも有効な方法である。実際に文章を書く際には、読み手が書いた本人の意図を読み取れないことがあることを自覚させ、読む人の立場に立って考える必要性を理解させることで、推敲を行う大切さをわかるようにしたい。
- 話し合い活動の中で、話がまとまったと感じたときの発言、整理されたと感じたときの言葉などをメモしておくようにするとよい。

学習の流れ

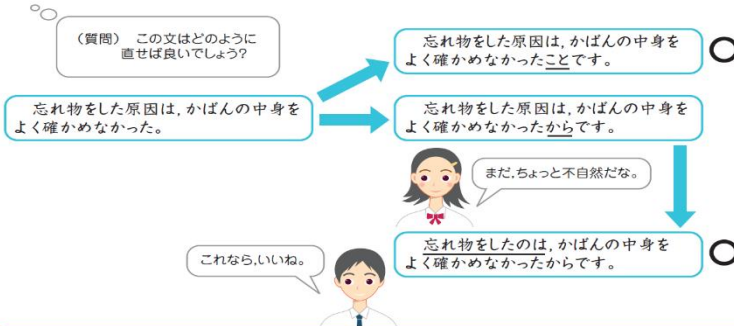
① 推敲する際に注意する点を確認する。

文の組立てについて注意する場合

- 主語と述語との関係
- 文末表現(常体と敬体、副詞の呼応など)
- 並立の言葉の使い方(「Aしたり、Bしたり」など)
- 一文の長さ(読点の付け方、「の」の多用、逆接表現の多用など)
- 修飾と被修飾との関係
- 助詞の使い方
- 同じ意味の言葉の重複

など

② 具体的な文の中で、どのように直せばよいのかを考える。



留意点

- 推敲する学習場面では、文と文、段落と段落のつながりなど文章の組立てに目を向けさせることも効果的である。

問題5の指導例

書いた文章を読み返し、適切な表現に書き直すことができるかどうかをみる。

授業アイデア例

『平成25年度 授業アイデア例 (中学国語)』

① 話し合いの様子を記録した動画を見て、課題を把握する。

身近な話し合いの動画(ここでは、「文化祭のオープニングは何を行うか」をテーマにした文化祭実行委員の話し合いの様子の記録)を提示し、司会の役割について考えさせる。

② 話し合いの流れが変わる場面で止めて、司会の役割と発言について話し合う。

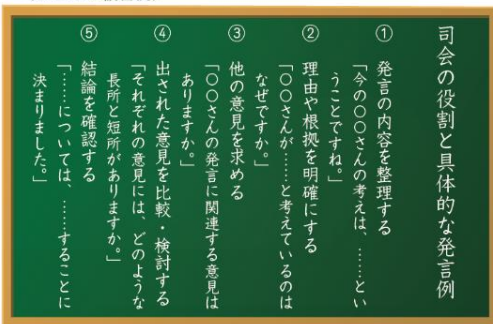
例えば、次のような場面を意図的に取り上げる。



③ 司会の役割をまとめる。

司会がどのような発言をするかによって、話し合いの流れが変わります。司会の役割を踏まえた上で、状況に応じてどのような発言をするべきかを具体的に考えて、話し合いを進めることが大切ですね。

〔まとめの板書例〕



本授業アイデア例 活用のポイント

- 話し合いには、意見を広げる場合や意見の一つにまとめる場合などがある。その話し合いの目的に応じて方向を捉え、司会の役割を考える必要がある。
 - ・ 意見を広げる題材の例
「身近でできるボランティア」
「身近な言葉遣いの問題点」など
 - ・ 意見の一つにまとめる題材の例
「修学旅行のグループ別コース」
「学級文集のテーマ」など
- 話し合いの動画は、日常の学級活動や委員会活動での話し合いを記録したものを活用することが考えられる。また、教師が作成したシナリオを生徒に演じさせたものを録画して活用してもよい。

参照 ▶ 『平成25年度 報告書 中学校 国語』 P.24～P.26, 『平成25年度 解説資料 中学校 国語』 P.14～P.16

問題8の指導例

話し合いの話題や方向性を捉えて、相手や場に応じた言葉遣いに注意して、的確に話すことができるかどうかをみる。

問題8の指導例

話し合いの話題や方向性を捉えて、相手や場に応じた言葉遣いに注意して、的確に話することができるかどうかをみる。

『平成28年度 授業アイデア例（中学国語）』

授業アイデア例

- ① 話し合いを行う〈話し合いグループ〉と、その様子を観察する〈観察グループ〉とに分かれる。
- ② テーマを決め、5分から10分程度の話し合いを行う。〈観察グループ〉は、話し合いの様子を動画に記録するとともに、話し合いの仕方として気になる発言についてメモを取る（ここでは、「学級目標をどのように決めるか」をテーマにした話し合いを行う）。
- ③ 二つのグループが合同で、記録した動画を見ながら発言の意図や効果について検討する。

テーマの例

- 学級目標をどのように決めるか。
- レクリエーションで行う運動競技を何にするか。
- 学級で作る文集の題名を何にするか。

など



教師

意見をまとめる必要がある話し合いの際に大切なことを考えましょう。撮影した動画を必要に応じて静止し、よいと思った発言や、気になる発言を取り上げながら考えましょう。

〔動画の中の上田さんの発言〕

山本さんと佐藤さんの考えは、学級委員が目標の案を作り、それを基に全員で話し合うということで共通しているね。でも、学級委員だけで原案を作るのは大変ではないかな。

〈観察グループ〉

- (1) ここで止めて。上田さんの今の発言には、どのような意図があったのかな。
- (3) この後、「学級目標に入れたいキーワードをグループごとに考えて、事前に学級委員に渡す」といふ意見が出されるなど、話し合いが深まるきっかけになったよね。



池田さん



※ (1)～(4)は発言の順序。

〈話し合いグループ〉

- (2) 私も二人と同じ考えなのだけれど、本当にその考えでよいのか、問題点を指摘しながら皆に確かめてみたいと思ったんだ。
- (4) 上田さんの発言のおかげで、私は自分の考えに足りない部分があることに気が付いたよ。



上田さん



山本さん

- ④ ③で話し合ったグループごとに、目的に沿った話し合いを行うためのポイントをまとめ、発表する。

〔目的に沿った話し合いを行うためのポイントの例〕



- 互いの考えの共通点や相違点を整理する。
- 必要に応じて別の立場や視点からも考える。
- 相手の立場や考えを尊重する。

本授業アイデア例

活用のポイント！

- 「平成25年度【中学校】授業アイデア例」P.7「話し合いの動画を見ながら、司会の役割を話し合う」を参考にして、司会の役割について同時に検討する学習活動も効果的である。
- 学級活動や他教科等での話し合いの様子を動画に記録し、用いることも考えられる。

参照 ▶ 「平成28年度 報告書 中学校 国語」P.45～P.47、「平成28年度 解説資料 中学校 国語」P.36～P.38

中学2年（中学1年学習内容）国語【思考・判断・表現】

問題：

- 7 【第1学年 読むこと C（1）アウエ】
 11 【第1学年 書くこと B（1）アイウ（2）イ】

問題内容：

- 7 文学的な文章を読み、文脈の中の語句の意味や表現の特色を捉えたり、展開の中で登場人物の心情を捉えたりすることができるかどうかをみる。
- 11 集めた材料を整理し、資料を効果的に用いるなどの構成を工夫し、根拠を明確にして自分の考えが伝わるように書くことができるかどうかをみる。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
7	2		表現の読み取り	36	22	41	短答式
	3		心情の読み取り	62	9	70	選択式
	5		適語補充・チョコ	56	26	65	短答式
	6		表現の特徴の読み取り	41	13	44	選択式
11	1	ア	資料を読み取り書く	33	19	32	選択式
		エ	資料を読み取り書く	56	22	61	選択式
	2	イ	材料を吟味して書く	54	23	61	選択式
		オ	材料を吟味して書く	57	25	69	選択式
	3	1	資料の収集・選択	49	25	60	選択式
		2	資料の収集・選択	47	25	55	選択式

誤答分析

- 文学的な文章中に使われている語句の意味や表現について、辞書的な意味や文脈上の意味を理解していない誤りや、登場人物の心情の変化を理解していないための誤りがみられる。
- 体力測定の結果のグラフを含むレポートを書く場面である。棒グラフが長いほどよい結果となる種目（ボール投げ等）と、逆に棒グラフが短いほどよい結果となる種目（50m走のタイム等）があるが、逆に解釈してしまうなど、情報を読み取れず、適切に事実を捉えることができていない誤りがみられる。

指導にあたって

- 文学的な文章の読解においては、場面の展開の仕方や登場人物の心情の描写に注意して内容を理解することに加えて、自分のものの見方を広げることなどが求められる。描写されている登場人物の価値観や心情は、自分が普段感じていることと異なる心の動きをしている場合もあれば、普段の自分と同じ心情である場合もある。生徒一人ひとりが一つの言葉を読んで感じることはそれぞれ異なり、それらについて他の人の意見を聞くことを通して、自分のものの見方を広げられるようにしたい。
- 第2学年では、日常生活からより広範囲の社会生活の中から多様な方法で材料を集める力が求められる。必要な情報の材料を集めるためには、何が重要なことなのかを考えることが大切である。

指導例

- 読み取れる登場人物の心情を生徒それぞれの言葉で言い換えてみたり、それを話し合ったりすることで共有するとよい。ある生徒は、登場人物の強い怒りを読み取り、ある生徒はその裏に孤独や悲しみがあると考え、といったように、一つの表現でも自分が考える以外にも様々な感じ方があるというのを知ることが大切である。その上で、筆者自身はどのような感情を表現しようとしていたかを考え、文章の中からそのヒントとなる部分を示すとよい。
- 学級や学年で実際にアンケートをとって、その報告書を生徒一人ひとりに書かせたり、新聞などに掲載されているインタビュー調査の結果などをもとに新聞の記事部分は読ませずに書かせたりして、書き終えた後にそれと比較してみるとよい。グラフなどの資料を正しく解釈し、適切に使う力は、数学の教科内だけでなく日常生活の上で大切となる。グラフを用いる効果やどのような資料の提示の仕方が適切かを考えられるようにしたい。また、同じ資料でも、表記の仕方を変えたり、異なるタイトルをつけたりするだけで、与える印象が異なることに気づかせたい。さらに、自分は何を伝えたくてその点に着目したのかを明確にすることの大切さを実感させたい。

問題：7に関連した指導例

授業アイディア例

『平成 26 年度 授業アイディア例（中学国語）』

学習の流れ

気になった箇所に線を引ながら文章を読む。
特に気になった箇所について感想等を書く（ワークシート使用）。
（第 1 時）

同じ箇所を引用した生徒同士、次に同じような感想をもった生徒同士でグループを作り、感想交流会を 2 回行う。
（第 2 時）

前時で交流したことを踏まえて、感想を具体的に書く。（第 3 時）

（言語活動）「装置の時代」を読み、感想交流会を開く。

教材例

- 星新一「装置の時代」（平成 25 年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語 B[2]）

第 1 時

- 学習の見通しをもち、気になる箇所に線を引ながら文章を読む。
- ワークシートに、①【特に気になった箇所（引用）】と②【それに対する感想】を書く。
- ②の感想をより豊かなものにするために、③《A》か③《B》のいずれかについて、自分の考えを書く（両方書いてもよい）。

〔③感想を深める《B》の記入例〕

「たしかに便利だ」が多いけれど、「たしかに」の表現があることにより、便利だけど、それだけでもないということが表れていると思う。「たしかに便利だ」（しかし……）というように、悪いことが続くことを暗示している気がする。だから、本当に作者が言いたかったのは、一見便利だと思ふものでも、誰にも考えつかないような悪い側面もあるということだと思ふ。

「わかしの人」という言葉が繰り返し出てくるが、最後の「わかしの人」というのは、装置を使い始めた頃の人を指しているのではないか。それ以外は、それよりもっと昔の装置がない時代の人を指していると思う。文章の前半では、エヌ氏は装置のない時代の人に対して装置を便利だと言っているが、最後は装置を使い始めて便利だと思っている人に対して恨めしい気持ちを感じているように感じる。

〔ワークシートの例〕

◆◇感想交流会を開こう◇◆

氏名 ()

作品名 装置の時代（星 新一）

先目、自動車を使って家族で近頃のスーパーに買い物に行ったり、泳ぎに巻き込まれてしまったり、歩いて行くよりも時間がかかってしまった。自動車はとても便利だと思っていたが、時には不便になることもあるのだと感じた。

② それに対する感想
それまでの文章の流れだと、装置の時代になって便利という意味で「考えもしなかったら」と書いてある。しかし、最後の文は、便利になると不便になることもあるということについての「考えもしなかったら」と思った。

③ 感想を深める《A》
自分の生活や体験で思い出すことはないか。
* これまで読んだ本の内容で思い出すことはないか。

① 特に気になった箇所（引用）
「なにが便利だ、こんなことになるうとは、わかしの人と考えもしなかったらう」

③ 感想を深める《B》
なぜ②のような感想が生まれたのか。
* 文章の他の言葉や表現と結び付かないか。

次ページに続く…

第2時

- ④ ①で同じ箇所を引用した生徒同士でグループを作り、感想交流会その1を開く。

- ⑤ ②で同じような感想をもった生徒同士でグループを作り、感想交流会その2を開く。

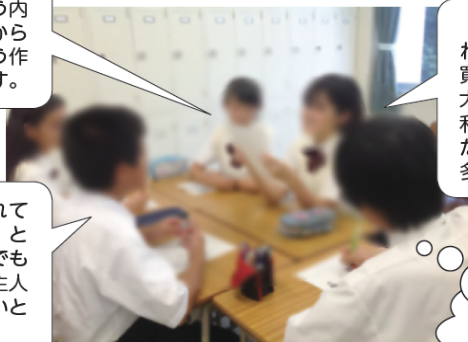


教師

②に書いた感想に、③の《A》や《B》に書いたことを加えて、グループで交流してみましょう。引用した箇所が同じでも、感想が同じとは限りません。また、感想が似ていても、そこに至るまでの《A》や《B》に違いがあるのではないのでしょうか。その違いを大切にすると、感想がより豊かなものになりますよ。

以前読んだ星新一さんの作品に、英語を勉強するための枕を作ったのに、結局、寝ているときにしか英語を話せないという内容のものがありません。どちらの文章から、機械に頼りすぎではよくないという作者のメッセージが読み取れると思います。

「たしかに便利だ。」と何度も書かれていることに注目しました。「たしかに」という言葉から、便利だけど、それだけでもないといった思いを感じます。だから主人公は、装置に囲まれた生活をあまりよいとは思っていないのではないのでしょうか。



自動車は便利なものだと思っていたけれど、先日、近くのスーパーに自動車で行く途中で渋滞に巻き込まれ、大変な時間がかかってしまいました。便利だと思っていたのに結局は不便であったということは、私たちの生活の中にも多くあると思います。

同じ箇所を引用しているのに、みんなの感想には意外と違いがあるな。

「なにが便利だ、こんなことになるうとは……」
を引用した生徒同士の感想交流会のイメージ

第3時

- ⑥ 前時で交流したことを踏まえて、感想を書く（400字程度）。その際、引用の仕方を確認する。
〔交流後の感想の例〕

便利な生活が不便さをもつこともあるというメッセージを、作者は伝えようとしていると思います。

私は、自動車は便利な乗り物だと思っていた。でも、多くの人が一斉に使えば、渋滞などに巻き込まれてかえって不便に感じることもありま。一見便利だと思うものも、状況によつては不便になることもあるのです。

この文章の前半では、装置の時代になって「たしかに便利だ。」と繰り返して書いてあります。改めて読んでみると、この「たしかに」という言葉は、そうではないこともあるということを示しているのだと感じます。

私たちの現在の生活も、この装置の時代と同じように便利な機械に囲まれています。でも便利になった半面で、失われたものもあるのではないのでしょうか。これからは、物事を一つの価値観で決めつけることなく、いろんな方向から見つめて、じっくり考えていきたいです。そうしないと、まさに「こんなことになろうとは、おかしな人は考えもしなかつたろう」という状況になってしまふと思います。



本文を引用して感想を書く際は、引用の仕方に注意が必要です。小学校で学んだ引用の仕方を思い出してみましょう。その上で、以下の点を確認しましょう。

- ・ 原文を正確に抜き出しているか。
- ・ 引用した部分が自分の考えの根拠になっていたり、自分の考えを補足したりしているか。
- ・ 書いた文章全体に対して、引用した部分は適切な量であるか。



本授業アイデア例 活用のポイント

- 調査時の感想と第3時の感想とを比べ、どのような点に違いがあるのかを改めて整理する学習も効果的である。その上で、他の作品を読み、整理した内容を踏まえて感想を書く学習が考えられる。
- 他の文学作品や教科書に掲載されている文章で本アイデアを用いることもできる。俳句や短歌などを鑑賞する文章を書く際に、例示したワークシートの形式を利用することも考えられる。

参照 ▶ 「平成25年度 報告書 中学校 国語」P.66～P.70, 「平成25年度 解説資料 中学校 国語」P.58～P.63

授業アイディア例

授業前の教師の準備

B②三についての生徒の解答の状況を「解答類型」（平成27年度 報告書 中学校 国語）に照らして把握する。特に、以下の「解答類型」の生徒の解答の状況に着目する。

●「解答類型3」の生徒

予想した2020年の社会に自分がどのように関わりたいかを具体的に書くことができていない。

第1時

- ① A, B, Cの資料を読み、二つ以上の資料の情報を関連させて考えたことや疑問に思ったことなどをノートに書く。
- ② ①で書いたノートを基に、どのような情報を関連させてどのように考えたのかを交流し、自分の考えを広げる。

6500メートルの深さまで潜ることができる有人潜水調査船があることに驚いたけれど、工場育ちのレタスがあることも驚いた。科学や技術の発達によって、今まで想像もしていなかったことが、どんどん現実になってきているのだね。



Aのグラフを見ると、科学や技術が発達することで人間らしさがなくなっていくのではないかと考えている人が多いね。でも、Bに書かれているような植物工場で野菜が作られることで私たちの食生活が豊かになるのだとしたら、一概にそうとは言えないな。

Cの記事にあるように、家に居ながら深海などの映像を見ることができるのはすばらしいね。でも、色々なことを自分で体験せずに、映像だけで満足するようになると、Aにある「人間らしさ」が減ることにつながるのかもしれないな。

- ③ 交流した内容を踏まえ、新たに考えたことや疑問に思ったことなどをノートに書き加える。

第2時

科学や技術が発達することで、私たちの暮らしはどのように変わっていくと考えますか。また、あなたはどのように暮らしていきたいと考えますか。A, B, Cの中の二つ以上の資料から必要な情報を取り出し、それらを関連させながら自分の考えを具体的に書いてみましょう。



教師

- ④ 第1時に書いたノートを参考にしながら、提示された課題についての自分の考えを書く。
- ⑤ 必要に応じて、学校図書館やインターネットなどを利用して、自分の考えを補足するための資料を収集する。

【書き直した文章の例】

第3時

- ⑥ 第2時に書いた文章を互いに読んで、二つ以上の資料から取り出した情報を関連させながら、自分の考えを具体的に書いているかどうかという観点で助言し合い、それを基に書き直す。



自分がどのように暮らしていきたいのかも書き足したらどうかな。

7

Aのグラフを見ると、「世の中は、だんだん科学や技術が発達して、便利になって来るが、それにつれて人間らしさがなくなっていく」という意見に反対している回答者が1993年以降は2割未満ですが、私もこの意見に反対です。なぜなら、BのようにITを活用した植物工場があれば、いつでも新鮮な野菜が食べられて、人間らしく健康的に暮らすことができると思うからです。自分で調べてみたら、サラダ菜などの野菜を育てている植物工場もあることが分かりました。私は、科学や技術が発達することで、今以上に食生活が充実して大勢の人が生き生きと暮らすことができるようになると思います。~~だから、科学や技術の発達による暮らしの変化はよいと思います。私は、今後、レタスなどの工場育ちの野菜を積極的に購入して食べてみたいと思います。また、友人にも試してみるように勧めるなど、科学や技術の発達による食生活の変化を楽しんで暮らしたいと思います。~~

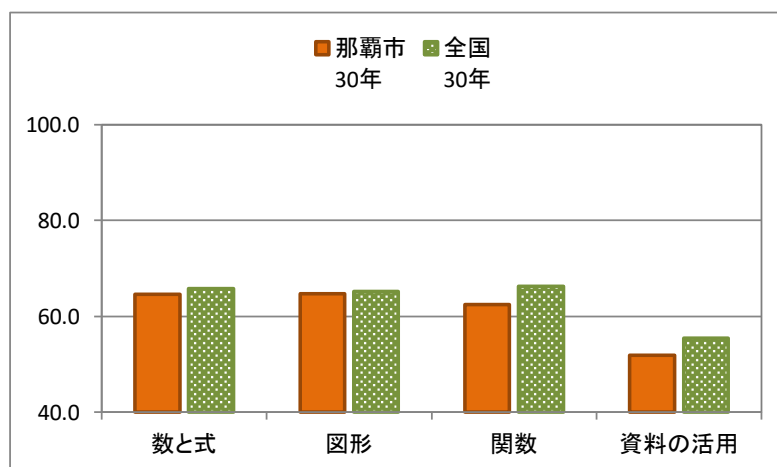
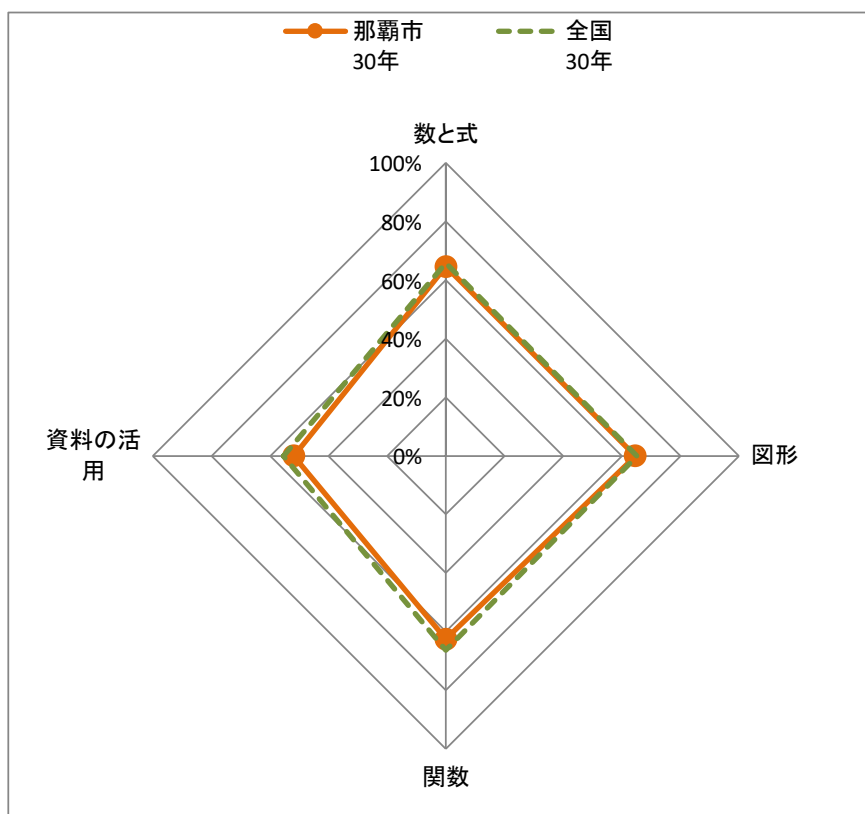
次ページに続く…

【第1学年 数学】

平成30年度那覇市到達度調査結果

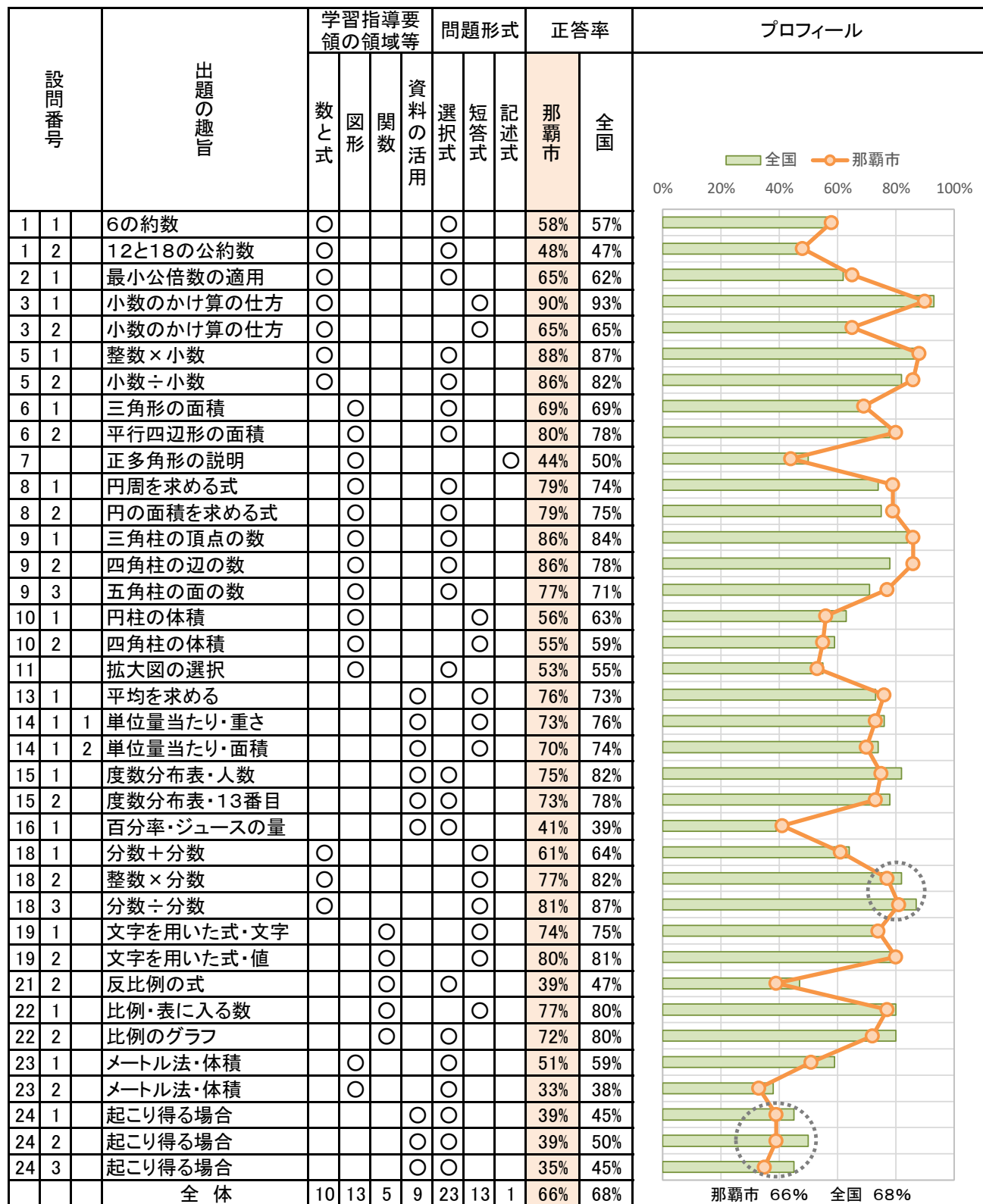
領域別結果（全国との比較）

第2学年 国語	那覇市 30年	全国 30年
数と式	64.6	65.8
図形	64.7	65.2
関数	62.5	66.3
資料の活用	51.9	55.4



第1学年 数学 要素1

問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素1 知識・理解、技能といった基礎的な内容】



第1学年 数学 要素2

問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素2 思考力・判断力・表現力が問われる活用的な内容】

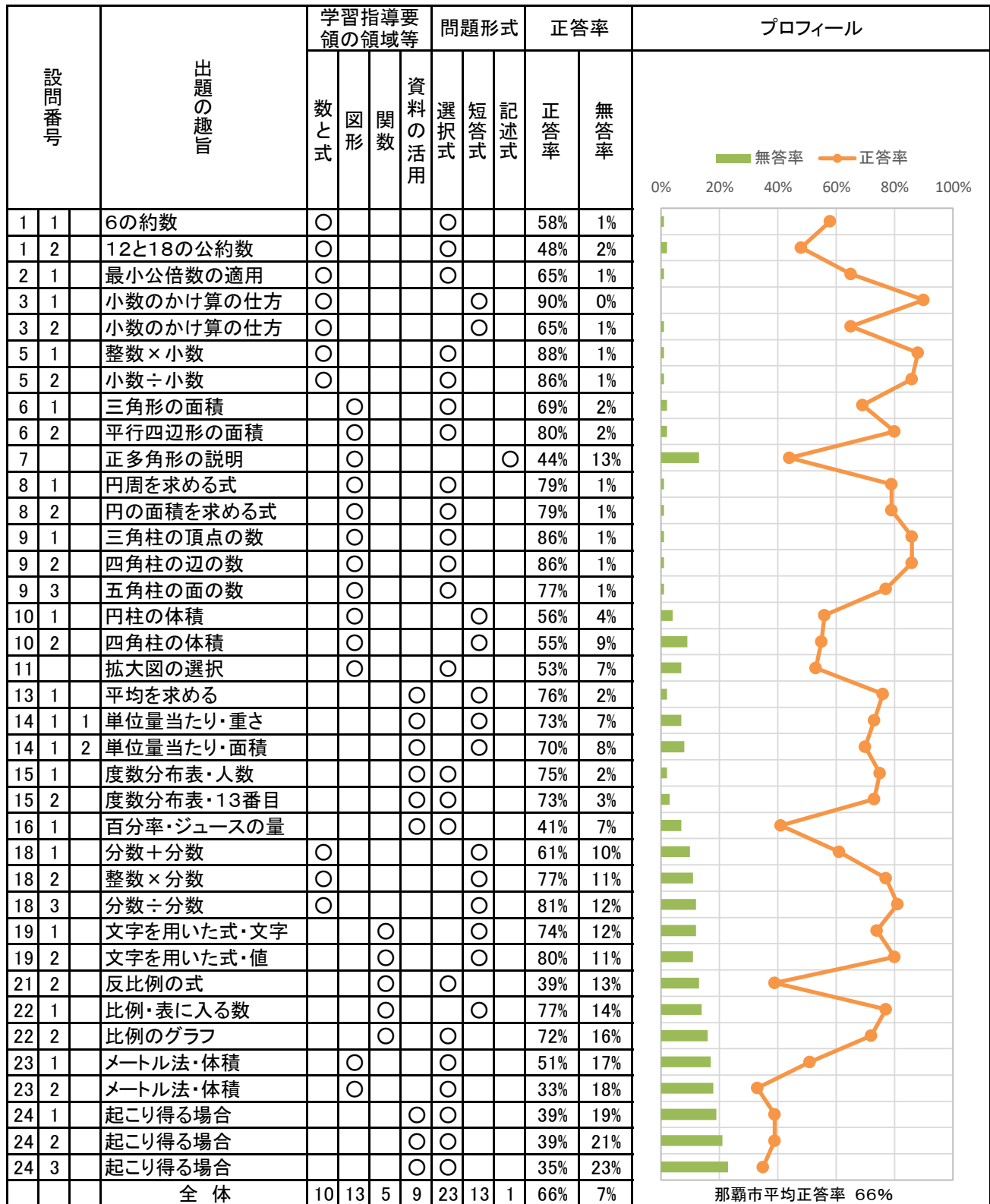
設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率		プロフィール
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式	那覇市	全国	
2 2	公倍数の適用	○				○			46%	43%	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>全国 那覇市</p> <p>那覇市 49% 全国 50%</p>
4	小数・わり算の筆算	○				○			42%	50%	
12 1	線対称である図形		○			○			72%	73%	
12 2	点対称である図形		○			○			57%	56%	
13 2	平均の応用				○	○			63%	60%	
14 2	単位量当たりの考え方				○		○		54%	52%	
16 2	百分率・割引券				○		○		41%	36%	
17	分数の除法の適用	○				○			39%	42%	
20	比例の利用			○		○			81%	83%	
21 1	反比例の事象			○		○			45%	52%	
22 3	比例の利用・速さ比較			○			○		34%	34%	
25 1	資料よみとり・増減				○	○			59%	70%	
25 2	資料よみとり・割合				○		○		24%	32%	
25 3	資料よみとり・対応				○		○		20%	23%	
全 体		3	2	3	6	9	4	1	49%	50%	



・・・課題となる問題として、考察コメントがあります。

第1学年 数学 要素1

問題別調査結果 正答率－無答率 【要素1】



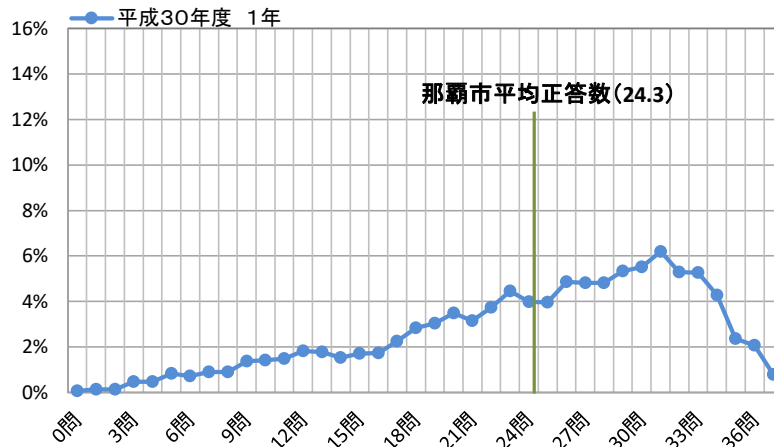
第1学年 数学 要素2

問題別調査結果 正答率-無答率 比較 【要素2】

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率		プロフィール
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式	正答率	無答率	
2 2	公倍数の適用	○				○			46%	4%	<p>プロフィール</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>無答率 正答率</p> <p>那覇市平均正答率 49%</p>
4	小数・わり算の筆算	○				○			42%	1%	
12 1	線対称である図形		○			○			72%	1%	
12 2	点対称である図形		○			○			57%	3%	
13 2	平均の応用				○	○			63%	4%	
14 2	単位量当たりの考え方				○			○	54%	12%	
16 2	百分率・割引券				○		○		41%	12%	
17	分数の除法の適用	○				○			39%	9%	
20	比例の利用			○		○			81%	9%	
21 1	反比例の事象			○		○			45%	13%	
22 3	比例の利用・速さ比較			○			○		34%	21%	
25 1	資料よみとり・増減				○	○			59%	25%	
25 2	資料よみとり・割合				○		○		24%	41%	
25 3	資料よみとり・対応				○		○		20%	39%	
	全 体	3	2	3	6	9	4	1	49%	14%	

度数分布【要素1】

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
那覇市	2758	24.3 / 37	66%	26問	8.0

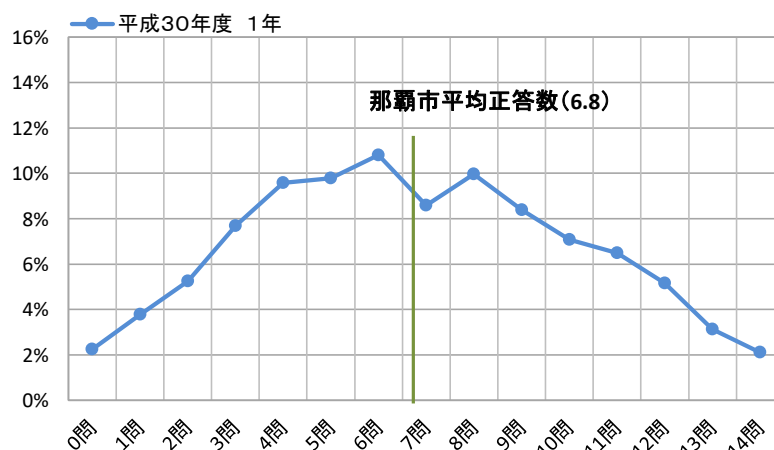


第1学年 数学

正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
正答数	那覇市	
	人数	割合
0問	2	0.1%
1問	4	0.1%
2問	4	0.1%
3問	13	0.5%
4問	13	0.5%
5問	23	0.8%
6問	20	0.7%
7問	25	0.9%
8問	25	0.9%
9問	38	1.4%
10問	39	1.4%
11問	41	1.5%
12問	50	1.8%
13問	49	1.8%
14問	42	1.5%
15問	47	1.7%
16問	48	1.7%
17問	62	2.2%
18問	78	2.8%
19問	84	3.0%
20問	96	3.5%
21問	87	3.2%
22問	103	3.7%
23問	123	4.5%
24問	110	4.0%
25問	109	4.0%
26問	134	4.9%
27問	133	4.8%
28問	133	4.8%
29問	147	5.3%
30問	152	5.5%
31問	171	6.2%
32問	146	5.3%
33問	145	5.3%
34問	118	4.3%
35問	65	2.4%
36問	57	2.1%
37問	22	0.8%

度数分布【要素2】

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
那覇市	2758	6.8 / 14	49%	7問	3.4



正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
正答数	那覇市	
	人数	割合
0問	62	2.2%
1問	104	3.8%
2問	145	5.3%
3問	212	7.7%
4問	264	9.6%
5問	270	9.8%
6問	298	10.8%
7問	237	8.6%
8問	275	10.0%
9問	231	8.4%
10問	195	7.1%
11問	179	6.5%
12問	142	5.1%
13問	86	3.1%
14問	58	2.1%

中学校1年数学において、要素1(基礎的な内容)で平均正答率が66%、要素2(活用的な内容)で平均正答率が49%であった。要素1では37問中、中央値が26問であり、全体的に得点分布が広く、学力の差が大きい。要素2では、14問中、中央値が7問であり、半分しか正答できない生徒が半数おり、生徒にとって難しい課題であったと考えられる。活用する力を伸ばしたい。

傾向の分析と課題となる問題

－中学１年 数学－

●全体的な傾向●

【要素１ 知識・理解／技能】

- ・ 小数の乗法（大問[5]）や図形の知識（大問[9]）など、基礎的な技能・知識はよく身につけている。
- ・ 分数の乗法や除法（大問[18]）や、起こり得る場合（大問[24]）の問いにおいて、全国的な傾向よりも下回っている小問もあり、課題がみられる。

【要素２ 思考・判断・表現】

- ・ 全体的には通過率の平均が49%と応用的な内容について、習得できていない。
- ・ 小数の除法の筆算の余りの処理（大問[4]）や、資料の読み取り（大問[25]）において、通過率が50%以下で、全国的な傾向よりも下回っている小問もあり、課題がみられる。

【指導にあたって】

- ・ 分数の乗法や除法の計算の意味をしっかりと理解することが大切である。
- ・ 順序や組み合わせの事象の意味を捉えて、「起こり得る場合」を考えさせたい。
- ・ 除法における余りの扱いを確認したい。
- ・ 実際の数と割合の違いを確認した上で複数の資料を見ることができるようになせたい。

●課題となる問題●

- * 「知識・理解／技能」・「思考・判断・表現」の要素別に、次ページ以降、分析を掲載しています。表に掲載しているカテゴリーの説明は以下の通りです。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
18	2		整数×分数	77	11	82	短答式

通過率：那覇市生徒の正答率（％）

無答率：那覇市生徒の無解答率（％）

全 国：全国生徒の正答率（％）

形 式：解答形式

中学 1 年（小学校学習内容）数学 【知識・理解・技能】

問題：

18 【 小学校第 6 学年 数と計算 A(1)イ 】

24 【 小学校第 6 学年 数量関係 D(5) 】

問題内容：

18 分数の乗法及び除法の計算ができるかどうかをみる。

24 「起こり得る場合」を順序よく整理して調べることができるかどうかをみる。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
18	2		整数×分数	77	11	82	短答式
	3		分数÷分数	81	12	87	短答式
24	1		起こり得る場合	39	19	45	選択式
	2		起こり得る場合	39	21	50	選択式
	3		起こり得る場合	35	23	45	選択式

誤答分析

- ・ 分数の乗法や除法，通分を混同しているための誤りがみられる。
- ・ 順序や組み合わせの事象の意味を捉えられていないための誤りがみられる。

指導にあたって・指導例

【整数×分数・分数÷分数などの計算】

分数の乗法や除法を学習すると，加法や減法の通分と混同してしまうことが多い。

原因としては、

- ① 数の計算について，それぞれの計算の意味をきちんと理解できていない。
- ② 「分母を揃える」「除法では分母と分子を入れ替える」などと形式的に覚えている。
などが考えられる。

$$(例) (2) \quad 8 \times \frac{3}{4}$$

$$(3) \quad \frac{3}{4} \div \frac{5}{6}$$

指導にあたっては

- ①なぜ除法では分母と分子を入れ替えるのかなどの意味をきちんとおさえさせることで，混同した場合でも自分で導き出せるようになるとよい。
- ②練習問題にしっかり取り組ませて，定着させたい。

※分数の計算はこの先の色々な学習事項に関わってくるので，理解が曖昧な生徒がいないか，常に確認をしながら授業を展開していきたい。

【起こり得る場合】

「場合の数」では、落ちや重なりが生じないように整理していくことが大切である。

指導にあたっては

- ①図や表にかいていくことが有効な手段であるが、どのような図や表がよいかを判断できるようになることが大切である。そのためには、場面ごとにいろいろな図や表をかくようにしたり、学級内で考え方を共有する機会を設けたりするとよい。
- ② どの場面では順番を考慮する必要があるのかということに気づく力も養いたい。

けんさん、ひさしさん、のりこさん、さとこさん、りかさん5人がいます。次の問いに答えなさい。

- (1) 学級長と副級長を男女各1名ずつ選ぶとき、選び方は何通りありますか。
- (2) 学級長と副級長を各1名ずつ選ぶとき、選び方は何通りありますか。
- (3) 体育委員会を2名選ぶとき、選び方は何通りありますか。

中学 1 年（小学校学習内容）数学 【思考・判断・表現】

問題：

- 4 【小学校第5学年 数と計算 A(3)イ 算数的活動(1)ア】
 25 【小学校第5学年 数量関係 D(3)(4) 算数的活動(1)オ】

問題内容：

- 4 小数の除法の筆算を読み取り，余りについて正しく捉えることができるかどうかをみる。
 25 2つの資料を読み取り，人数の変化や割合を求め，考察することができるかどうかをみる。

問題番号	問題内容	通過率	無答率	全国	形式
4	小数・わり算の筆算	42	1	50	選択式
25	1 資料よみとり・増減	59	25	70	選択式
	2 資料よみとり・割合	24	41	32	短答式
	3 資料よみとり・対応	20	39	23	短答式

誤答分析

- ・小数の除法の筆算における余りを書く位置や，小数点を打つ位置を考えることができないための誤りがみられる。
- ・実際の数と割合の違いが理解できていないために適切なデータを考えることができない。

指導にあたって・指導例

【小数・わり算の筆算】

原因としては，

小数の除法については，余りの小数点の扱いがわかりにくい。ことが考えられる。

指導にあたっては

- ① 小数の仕組みや余りの意味も確認をしながら，丁寧に指導する必要がある。
- ② 答えを求めた後に，問題場面に立ち返って確認をする習慣をつけさせたい。

（例えば）この問題では2.45Lのお茶を0.7Lずつ分けているので，3.5Lの余りになることがおかしいと，自ら気づけるとよい。

【類題】

8.96mのひもを1.6mずつ切ってわけます。1.6mのひもが何本切り取れて，何mあまりですか。この問題の正しい答えを出すことができるのは次の誰ですか。下のア～ウの中から1つ選びなさい。

<p>ア てつさん</p> $\begin{array}{r} 5.6 \\ 1.6 \overline{) 8.96} \\ \underline{80} \\ 96 \\ \underline{96} \\ 0 \end{array}$ <p>5本できて、 答え 0.6mあまる</p>	<p>イ めぐみさん</p> $\begin{array}{r} 5 \\ 1.6 \overline{) 8.96} \\ \underline{80} \\ 096 \end{array}$ <p>5本できて、 答え 0.96mあまる</p>	<p>ウ おさむさん</p> $\begin{array}{r} 5 \\ 1.6 \overline{) 8.96} \\ \underline{80} \\ 96 \end{array}$ <p>5本できて、 答え 9.6mあまる</p>
---	---	---

【資料よみとり・増減、割合、対応】

原因としては

指導にあたっては

- ① 複数の資料を読み取るときには、目的に応じて必要な資料や、示されているデータを選ぶことが大切である。その際に、実際の数を表すときと、割合を表すときのグラフでは意味が異なることに気をつけさせたい。
- ② 複数の資料の違いをしっかりと理解していない生徒も多いので、授業で取り扱うときには、何を表しているグラフなのかを確認するとよい。

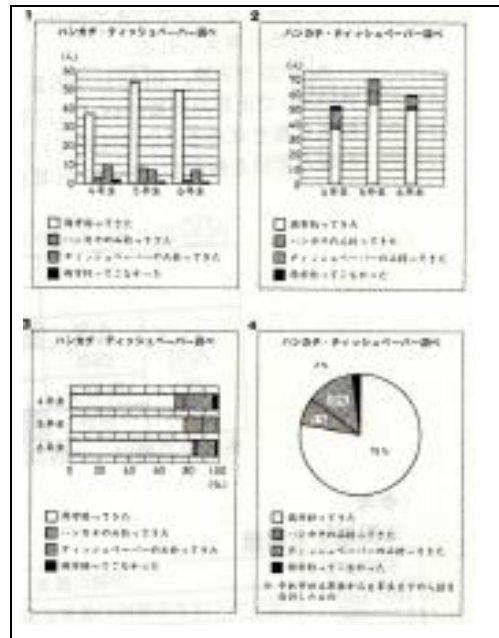
※ 問題を解決するためには、目的にあった適切な表やグラフを選択し表したり、読み取ったり、グラフどうしを関連付けて解釈

したりするなど、目的に応じて表やグラフ

を活用できるようにすることが大切である。その際、棒グラフは数量の大きさを示

し、帯グラフや円グラフは数量の割合を示

すなどの目的があることを理解できるようにすることが大切である。さらに、同じ割合を表すグラフであっても、目的に応じて表現の仕方が異なる場合があることを理解できるようにすることも大切である。

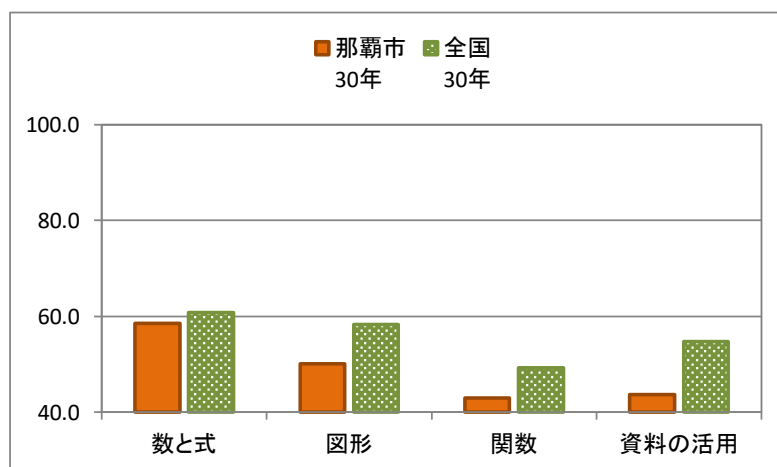
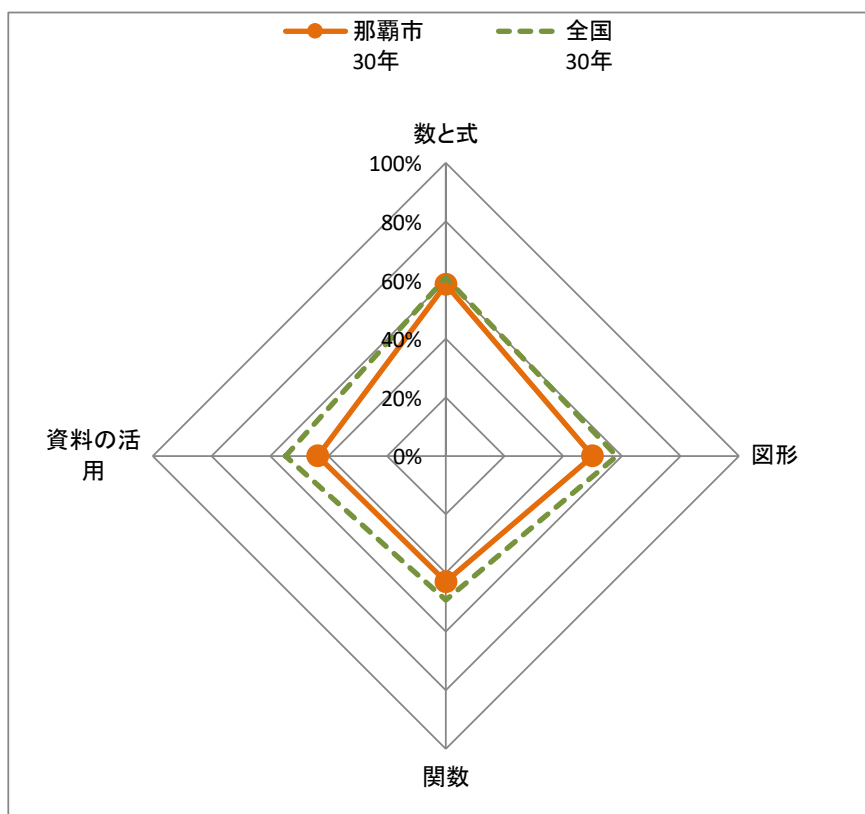


【第2学年 数学】

平成30年度那覇市到達度調査結果

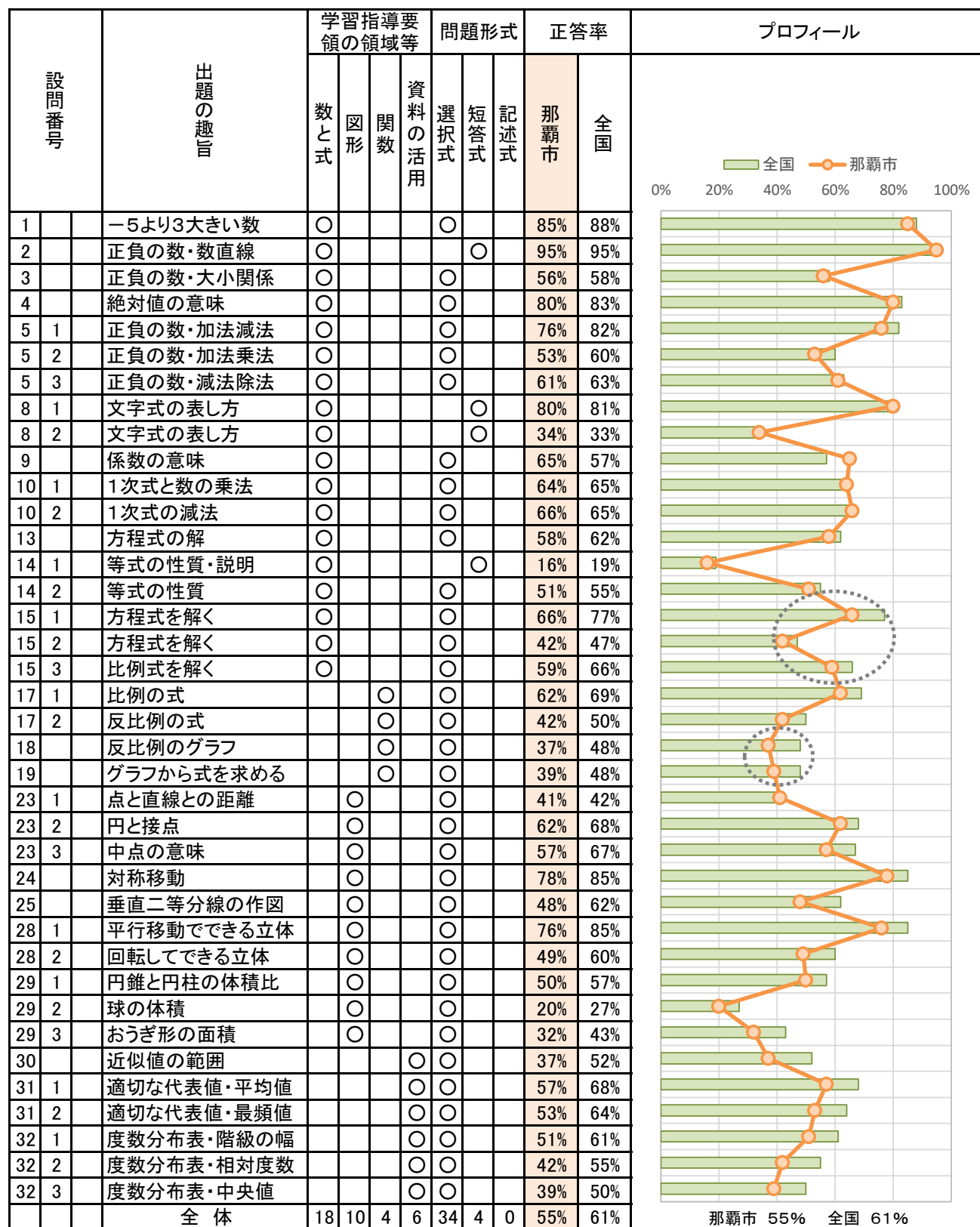
領域別結果（全国との比較）

第2学年 数学	那覇市 30年	全国 30年
数と式	58.5	60.8
図形	50.1	58.3
関数	42.9	49.2
資料の活用	43.7	54.7



第2学年 数学 要素1

問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素1 知識・理解、技能といった基礎的な内容】



第2学年 数学 要素2

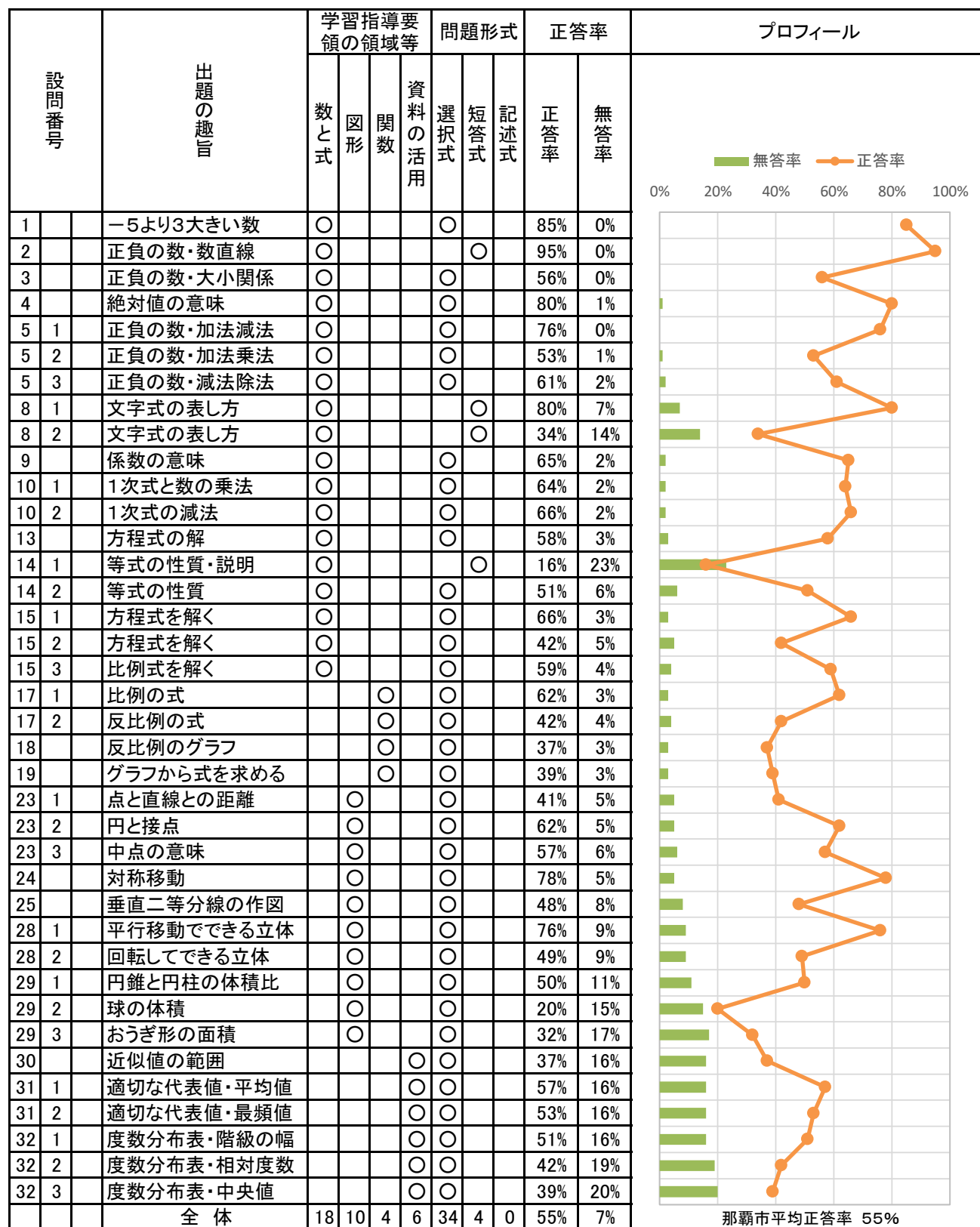
問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素2 思考力・判断力・表現力が問われる活用的な内容】

設問番号		出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率		プロフィール
			数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式	那覇市	全国	
6		和が常に負になる条件	○				○			62%	62%	
7	1	正負の数の利用	○					○		76%	75%	
7	2	正負の数の利用	○					○		50%	53%	
11		数量を文字式で表す	○				○			42%	45%	
12	1	文字式・文字の意味	○						○	60%	62%	
12	2	文字式の利用	○				○			33%	32%	
16		方程式・立式	○				○			32%	36%	
20	1	yがxに比例			○		○			43%	48%	
20	2	yがxに反比例			○		○			37%	45%	
21	1	比例・水面の位置			○		○			45%	46%	
21	2	比例・式で表す			○			○		51%	58%	
22		比例の利用			○		○			33%	35%	
26		直線や平面の位置関係		○			○			32%	39%	
27		投影図		○			○			60%	68%	
32	4	ヒストグラム・解釈				○	○			29%	35%	
		全 体	7	2	5	1	11	3	1	46%	49%	

・・・課題となる問題として、考察コメントがあります。

第2学年 数学 要素1

問題別調査結果 正答率－無答率 【要素1】



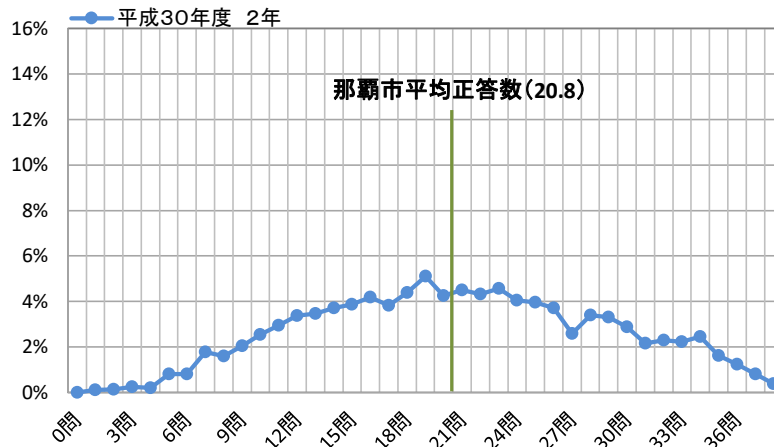
第2学年 数学 要素2

問題別調査結果 正答率-無答率 比較 【要素2】

設問番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率		プロフィール
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式	正答率	無答率	
6		○				○			62%	3%	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>無答率 正答率</p> <p>那覇市平均正答率 46%</p>
7 1	和が常に負になる条件	○				○			76%	1%	
7 2	正負の数の利用	○					○		50%	4%	
11	正負の数の利用	○				○			42%	2%	
12 1	数量を文字式で表す	○						○	60%	13%	
12 2	文字式・文字の意味	○							33%	3%	
16	文字式の利用	○				○			32%	6%	
20 1	方程式・立式	○				○			43%	5%	
20 2	yがxに比例			○		○			37%	5%	
21 1	yがxに反比例			○		○			45%	6%	
21 2	比例・水面の位置			○			○		51%	18%	
22	比例・式で表す			○					33%	5%	
26	比例の利用			○		○			32%	7%	
27	直線や平面の位置関係		○			○			60%	7%	
32 4	投影図		○			○			29%	20%	
	全体	7	2	5	1	11	3	1	46%	7%	

度数分布【要素1】

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
那覇市	2820	20.8 / 38	55%	21問	7.9

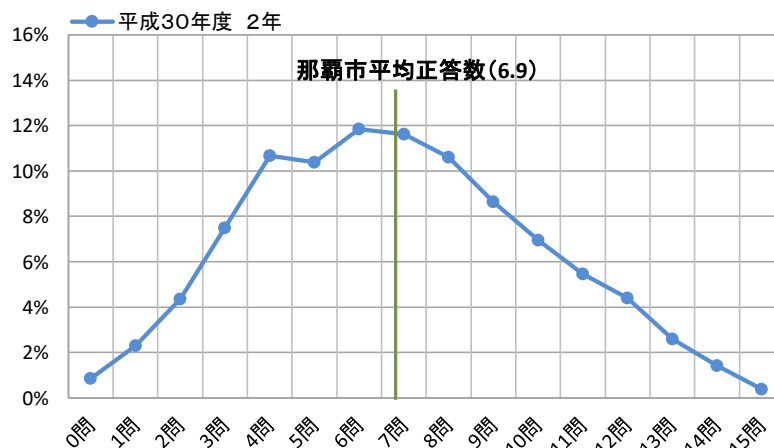


第2学年 数学

正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
正答数	那覇市	
	人数	割合
0問	0	0.0%
1問	3	0.1%
2問	4	0.1%
3問	7	0.2%
4問	6	0.2%
5問	23	0.8%
6問	23	0.8%
7問	50	1.8%
8問	45	1.6%
9問	58	2.1%
10問	72	2.6%
11問	83	2.9%
12問	95	3.4%
13問	98	3.5%
14問	105	3.7%
15問	109	3.9%
16問	118	4.2%
17問	108	3.8%
18問	124	4.4%
19問	144	5.1%
20問	120	4.3%
21問	127	4.5%
22問	122	4.3%
23問	129	4.6%
24問	114	4.0%
25問	112	4.0%
26問	105	3.7%
27問	73	2.6%
28問	96	3.4%
29問	93	3.3%
30問	81	2.9%
31問	61	2.2%
32問	65	2.3%
33問	63	2.2%
34問	69	2.4%
35問	46	1.6%
36問	35	1.2%
37問	23	0.8%
38問	11	0.4%

度数分布【要素2】

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
那覇市	2820	6.9 / 15	46%	7問	3.2



正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
正答数	那覇市	
	人数	割合
0問	24	0.9%
1問	65	2.3%
2問	123	4.4%
3問	211	7.5%
4問	301	10.7%
5問	293	10.4%
6問	334	11.8%
7問	328	11.6%
8問	299	10.6%
9問	244	8.7%
10問	196	7.0%
11問	154	5.5%
12問	124	4.4%
13問	73	2.6%
14問	40	1.4%
15問	11	0.4%

中学校2年数学において、要素1(基礎的な内容)で平均正答率が55%、要素2(活用的な内容)で平均正答率が46%であった。要素1では38問中、中央値が21問であった。要素2では、15問中、中央値は7問であった。要素1の標準偏差が7.9と得点の散らばりが大きく、得点の低い生徒も一定数いるので基礎的な力をつけさせたい。要素2は、平均点付近の生徒が多く、高得点の生徒と低得点の生徒の分布がほぼ対称となっており、学力の差が出やすい問題であったと考えられる。それぞれの生徒の学力の特徴や課題を把握する必要がある。

傾向の分析と課題となる問題

－中学２年 数学－

●全体的な傾向●

【要素１ 知識・理解／技能】

- ・全体的には通過率の平均が 55%と、基礎的な内容をあまり習得できていない。
- ・方程式を解く問い（大問 15）や、比例や反比例のグラフの問い（大問 18, 19）において、通過率が 50%以下で、全国的な傾向よりも下回っている小問があり、課題がみられる。

【要素２ 思考・判断・表現】

- ・全体的には通過率の平均が 46%と、応用的な内容をあまり習得できていない。
- ・比例の式で表す問題（大問 21）や、立体の性質についての問題（大問 26, 27）において、通過率が全国的な傾向よりも下回っている。特に大問 26 は、通過率が約 30%と課題がみられる。

【指導にあたって】

- ・分数を含む 1 次方程式を確実に解けるように練習をする必要がある。
- ・比例と反比例のグラフにおいて、比例定数によってグラフがどのように変わるのかを捉えさせたい。
- ・比例において表やグラフを読み取って立式できるようにさせたい。
- ・平面と立体を結びつけて、立体図形を捉えることができるようにさせたい。

●課題となる問題●

- * 「知識・理解／技能」・「思考・判断・表現」の要素別に、次ページ以降、分析を掲載していきます。表に掲載しているカテゴリーの説明は以下の通りです。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
15	1		方程式を解く	66	3	77	選択式

通過率：那覇市生徒の正答率（％）

無答率：那覇市生徒の無解答率（％）

全 国：全国生徒の正答率（％）

形 式：解答形式

中学2年（中学1年学習内容）数学【知識・理解・技能】

問題：

15 【第1学年 数と式 A(3)ウ】

18 19 【第1学年 関数 C(1)エ】

問題内容：

15 1次方程式や比例式を解くことができるかどうかをみる。

18 19 反比例のグラフが通る点を見いだすことや、グラフから比例の式を求めることができるかどうかをみる。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
15	1		方程式を解く	66	3	77	選択式
	2		方程式を解く	42	5	47	選択式
	3		方程式を解く	59	4	66	選択式
18			反比例のグラフ	37	3	48	選択式
19			グラフから式を求める	39	3	48	選択式

誤答分析

- ・ 1次方程式を解くことができていない。特に、分数が混ざった問題で誤りが多い。
- ・ 比例や反比例について、比例定数によってどのようにグラフが変わるかを理解できていない。

指導にあたって・指導例

【方程式を解く】

全国的な傾向と比べて、基本的な1次方程式において通過率が低い。

原因としては

① 方程式を解くことの意味や、基本的な解法などが理解できていない。

② 分数が苦手であるために方程式が解けない生徒もみられた。ことなどが考えられる。

指導にあたっては

① 方程式を解くことの意味や、移項の仕方など、基本的な事項に戻って指導をする必要がある。

② 分数が苦手であるために方程式が解けない生徒もいると考えられるので、基本的な解法と併せて、係数が分数の場合の解法の指導も丁寧に行う必要がある。

$$(1) \quad 5x + 7 = -x + 31$$

$$(2) \quad \frac{3}{4}x = \frac{1}{4}x - 7$$

$$(3) \quad 6 : 8 = x : 12$$

※ 1 次方程式が正しく解けない場合に、その原因は様々であるので、個人のつまずきに応じて適切な指導をしていくことが求められる。

【反比例のグラフ，グラフから式を求める】

原因としては

比例や反比例について、式や表・グラフの特徴などが理解できていないことなどが考えられる。

指導にあたっては

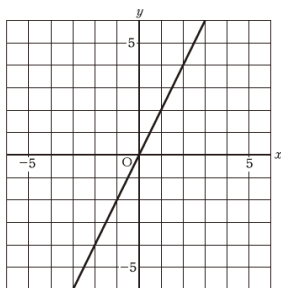
- ① 関数では、グラフと式を相互に関連させて学習を進めていくことが大切である。
- ② 比例や反比例について、それぞれの関数でグラフがどのように変わるのかをおさえさせたい。

（例えば）比例においては、比例定数が 1 より大きい場合と小さい場合、反比例においては比例定数が 0 より大きい場合と小さい場合など、それぞれの関数で比例定数によってグラフがどのように変わるのかをおさえさせたい。

- ③ 問題を解くときには、グラフが通る点の座標を式に代入することで、本当に式が成り立つかどうかを確認するとよい。

- (1) 下の図の直線は、比例のグラフを表しています。

このグラフについて、 y を x の式で表しなさい。

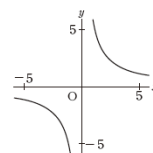


○ グラフや表から、式を表すことができるように、相互に関連させて学習を進めていくことが大切である。

- (2) 次の図の曲線は、反比例のグラフを表しています。

このグラフについて、 x と y の関係を示した表が、

下のアからエまでの中にあります。正しいものを 1 つ選びなさい。



ア

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-2	-3	-6	<input checked="" type="checkbox"/>	6	3	2	...

イ

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-2	-4	-6	<input checked="" type="checkbox"/>	6	4	2	...

ウ

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-1.5	-3	-6	<input checked="" type="checkbox"/>	6	3	1.5	...

エ

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	2	3	6	<input checked="" type="checkbox"/>	-6	-3	-2	...

○ 表から座標を読み取り、グラフ上に点を取る作業を行うことも大切である。また、式に座標を代入して本当に成り立つか確認する作業も行うとよい。

中学2年（中学1年学習内容）数学 【思考・判断・表現】

問題：

21 【第1学年 関数 C(1)エオ】

26 27 【第1学年 図形 B(2)アイ】

問題内容：

21 比例を用いた具体的な場面において，式に表すことができるかどうかをみる。

26 27 四角柱における辺や面の位置関係について捉えることができるか，見取り図で表された空間図形において，1つの方向から見たときの形を捉えることができるかどうかをみる。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
21	2		比例・式で表す	51	18	58	短答式
26			直線や平面の位置関係	32	7	39	選択式
27			投影図	60	7	68	選択式

誤答分析

- ・表を読み取って比例の式を立てることができておらず，無答も多い。
- ・立体における図形の位置関係や見え方を捉えられないことによる誤りがみられる。

指導にあたって・指導例

【比例・式で表す】

指導にあたっては

- ① 表やグラフを読み取って，自分で式を立てられるようにしたい。そのためには，普段の学習でも表やグラフと式を関連させて，相互に表現をすることができるように練習をすることが大切である。
- ② 生徒がどの部分を苦手としているのかを把握することで，関数の立式の学習に生かしていきたい。関数についてだけでなく，それ以前の学習でつまづいているために式を立てられない生徒もいる。分数の学習で苦手があったり，文字式の計算や，1次方程式についての理解が曖昧であったりすると，関数の式の仕組みは理解しにくい。
- ③ いくつかの表の中から， y が x に比例する関係を表したものを選んだり，表の座標から式を立てる練習を行うなどする。

ア	x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
	y	...	-6	-3	0	3	6	9	12	...
ウ	x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
	y	...	4	3	2	1	0	-1	-2	...
エ	x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
	y	...	-12	-8	-4	0	4	8	12	...
オ	x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
	y	...	9	4	1	0	1	4	9	...

【空間図形・直線や平面の位置関係，投影図】

原因としては

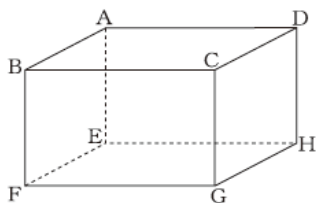
立体をイメージできず，図形の位置関係や見え方を捉えられないことが考えられる。

指導にあたっては

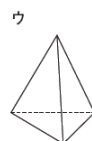
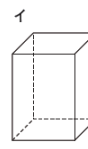
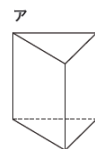
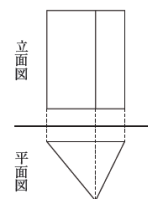
- ① 空間図形においては，模型を使ったりコンピュータ上で図形を動かしたりすることで，立体としてのイメージを持つことができるようにしたい。
- ② イメージをもとに，平面において場面が表現されたときに，立体を想像することで，平面と立体をしっかりと結びつけて考えることができるようにしたい。
- ③ 垂直や平行など，図形における用語を確実におさえることが大切である。平面図形のときに学習済みのものもあるが，立体においては位置関係が複雑になるので，改めてしっかりと確認をしておきたい。

(1) 右の図のような直方体があります。
これについて，次の①，②の各問いに答えなさい。

- ① 面EFGHと垂直な辺を1つ書きなさい。
- ② 辺BFとねじれの位置にある辺を1つ書きなさい。



(2) 下の図は，ある立体の投影図で，正面から見た図（立面図）と真上から見た図（平面図）で表したものです。この立体の見取図が下のアからオまでの中にあります。正しいものを1つ選びなさい。



○直線と平面の位置関係

直線と直線(辺と辺)の位置関係について
立体をイメージして考えることができる
ようにしたい。

○実際に、立体図や平面図を考察する活動を取り入れるとよい。